

(案)

「日本海中南部の海域活断層の長期評価（第一版）—近畿地域・北陸地域北方沖—」
で新たに評価対象となった海域活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）

令和 7 年 6 月
地震調査研究推進本部事務局

地震調査委員会は、令和7年6月に「日本海中南部の海域活断層の長期評価（第一版）—近畿地域・北陸地域北方沖—」（以下、日本海中南部の長期評価）を公表しました。日本海中南部の長期評価では、主要活断層帯及び沿岸海域の主要活断層帯の選定基準や陸域への地震・津波被害を踏まえて、断層長さ20 km程度以上の海域活断層を主な評価対象とし、海域活断層ごとに位置・長さ・形状・活動度などを評価しました。今回、評価が行われたそれぞれの活断層で発生する地震に対するイメージを持って頂くことを目的に、想定されている地震が発生した場合にどの程度の揺れに見舞われる可能性があるかについて、計算を行いました。次ページ以降に、日本海中南部の長期評価における評価対象の海域活断層（帯）について、簡便法（地震動予測式）により予測震度分布を計算した結果を掲載しています。長期評価結果と併せて、防災対策の一助として頂ければ幸いです。なお、本資料の図中の断層については、計算のためにモデル化した簡易的なものであり、個々の断層の詳細なトレースについては、日本中南部の長期評価の図1や図2-1などを参照してください。

<予測震度分布図を掲載した評価対象の海域活断層（帯）>

（西部区域）

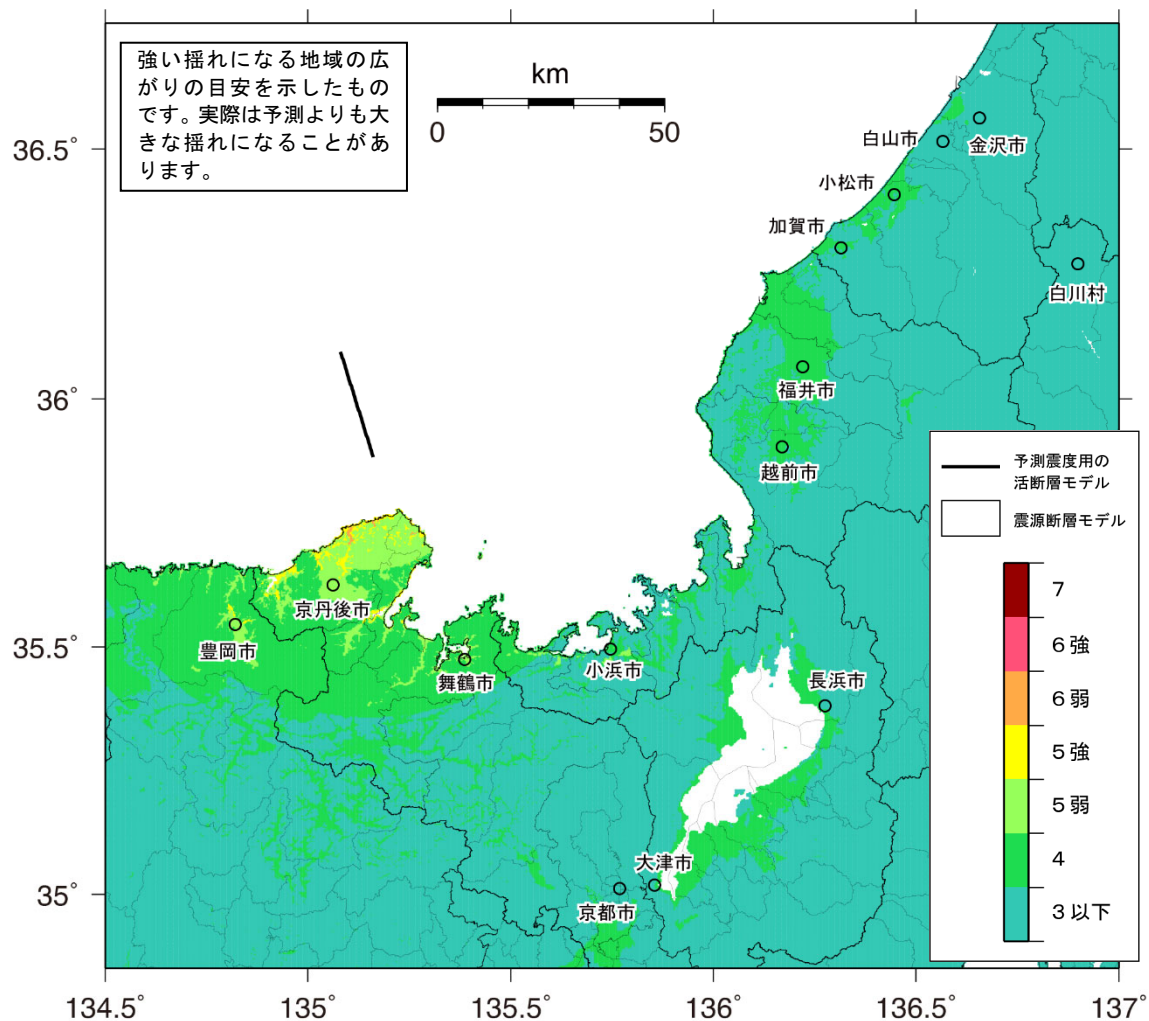
- ・ 沖ノ礁北方断層
- ・ 経ヶ岬沖断層
- ・ 小浜沖断層
- ・ 浦島礁北方北断層
- ・ 若狭海丘列北縁断層
- ・ 越前岬西方沖北断層
- ・ 浦島礁北東断層
- ・ ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯
- ・ 加佐ノ岬沖断層

（東部区域）

- ・ 羽咋沖東断層
- ・ 羽咋沖西断層
- ・ 内灘沖断層
- ・ 海士岬沖東断層
- ・ 門前断層帯
- ・ 沖ノ瀬東方断層
- ・ 能登半島北岸断層帯
- ・ 輪島はるか沖断層
- ・ 能登半島北方沖断層
- ・ 舢倉島近海断層帯
- ・ 七尾湾東方断層帯
- ・ 飯田海脚南縁断層
- ・ 富山トラフ西縁断層
- ・ 富山トラフ横断断層

【参考】沖ノ礁北方断層の地震による予測震度分布（簡便法）

沖ノ礁北方断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

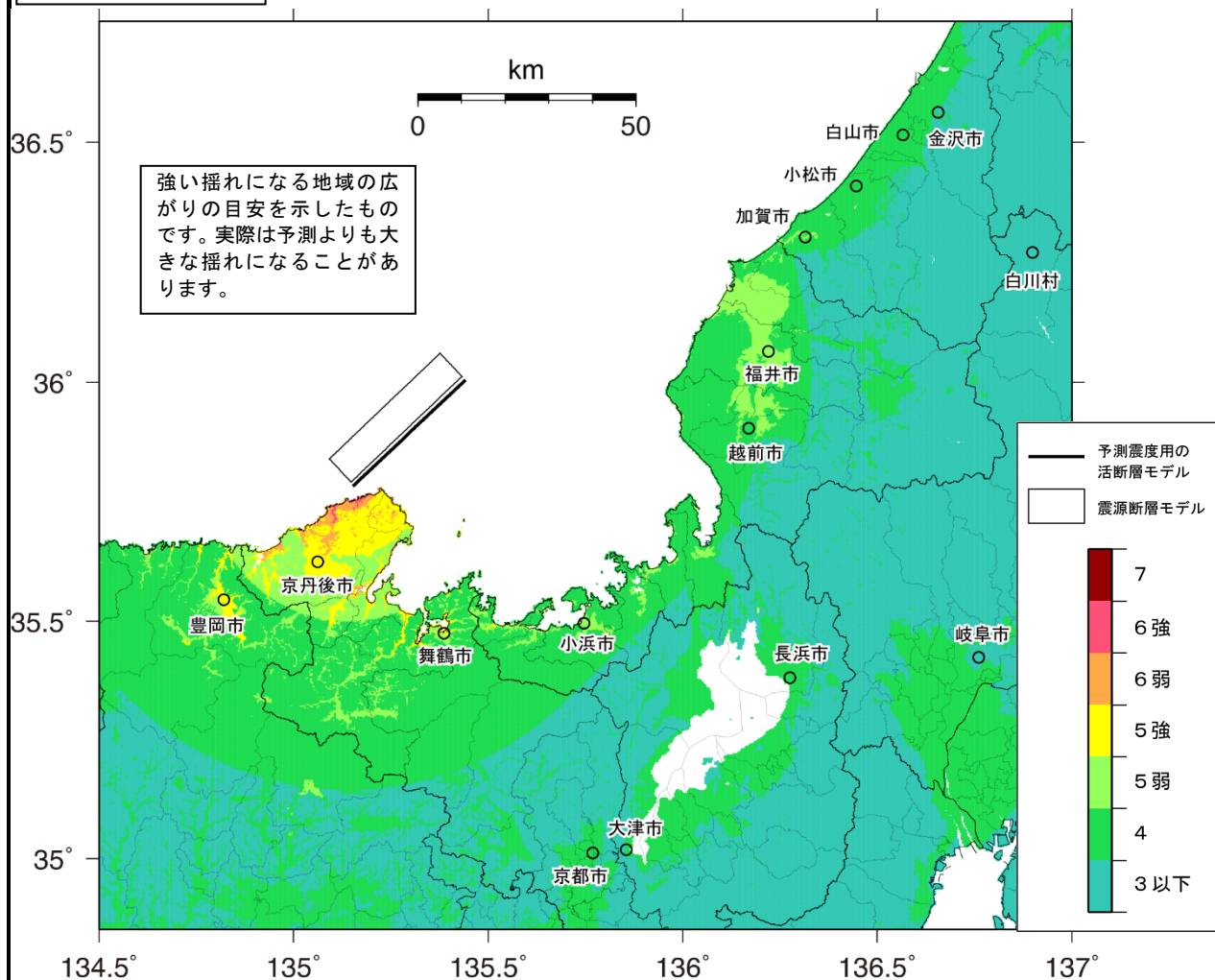
沖ノ礁北方断層は、長さ約 25 km のほぼ北北西－南南東走向の左横ずれ断層です。

沖ノ礁北方断層全体が一度に活動した場合、マグニチュード（M）7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】経ヶ岬沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

経ヶ岬沖断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

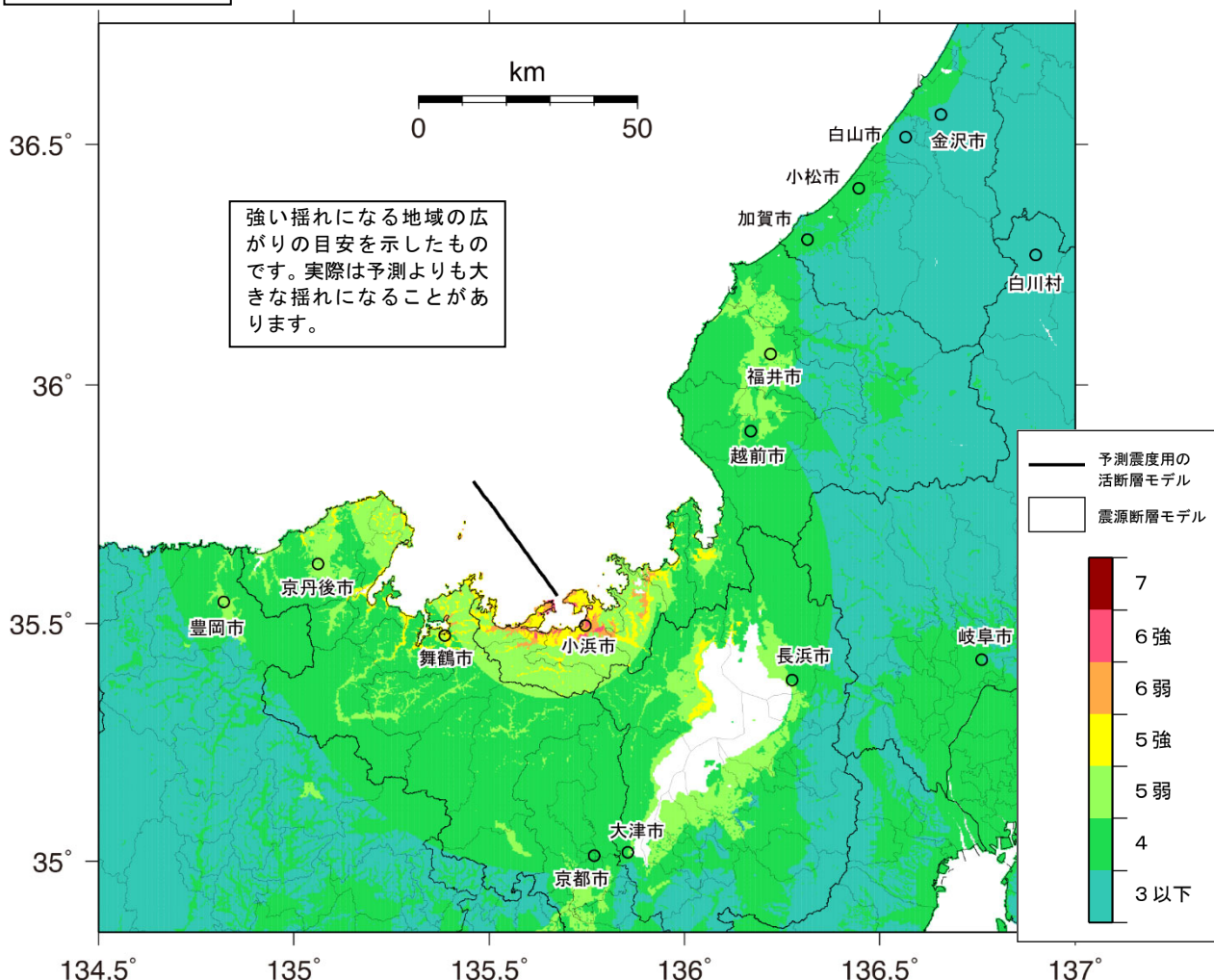
経ヶ岬沖断層は複数の断層から構成されますが、全体として長さ約 36 km の北東－南西走向で、右横ずれ成分を伴う北西側隆起の逆断層です。

経ヶ岬沖断層全体が一度に活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】小浜沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

小浜沖断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

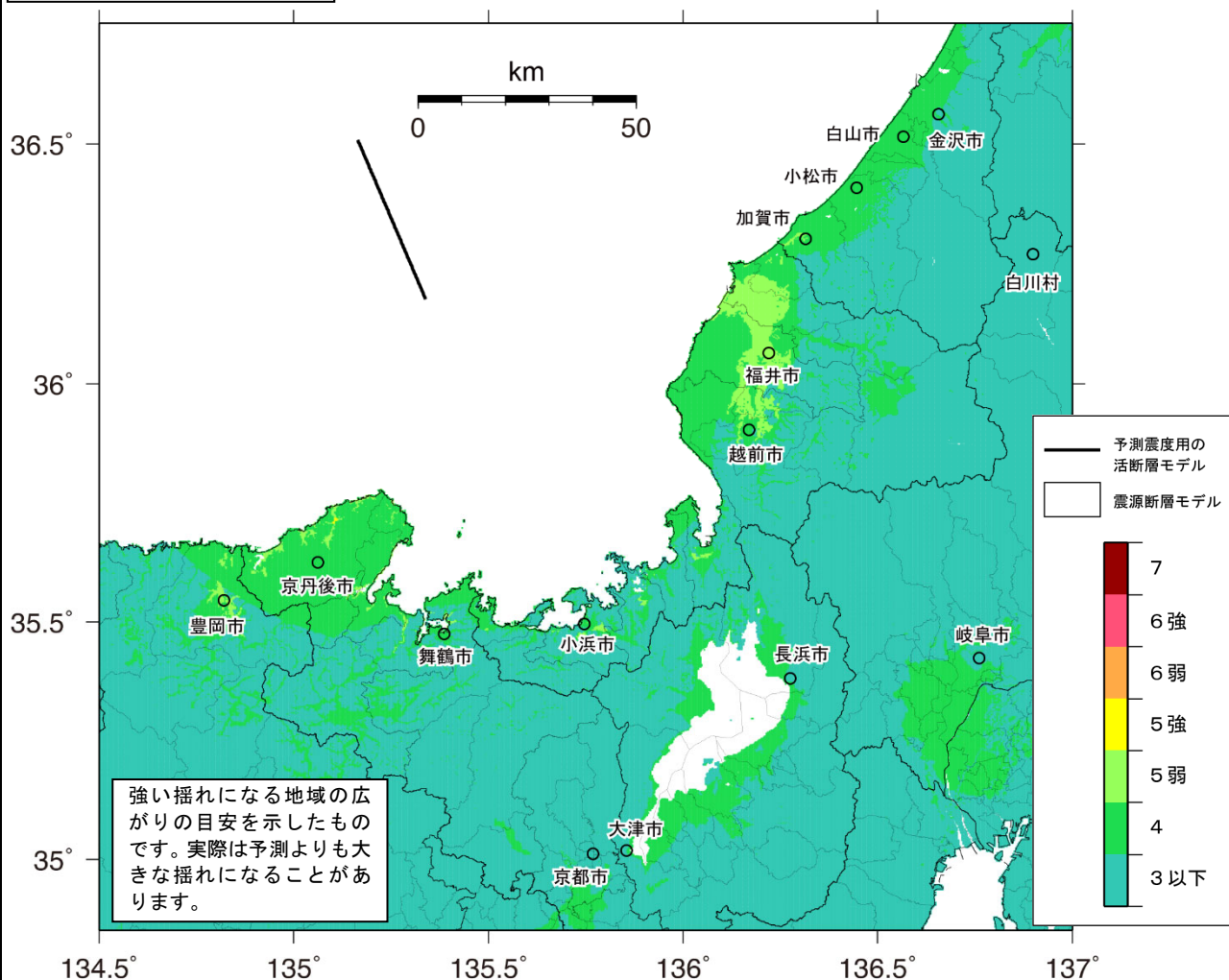
小浜沖断層は、小浜湾口から北北西方向に延びる北北西－南南東走向の長さ約 33 km もしくはそれ以上の左横ずれ断層です。

小浜沖断層全体が一度に活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】浦島礁北方北断層の地震による予測震度分布（簡便法）

浦島礁北方北断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

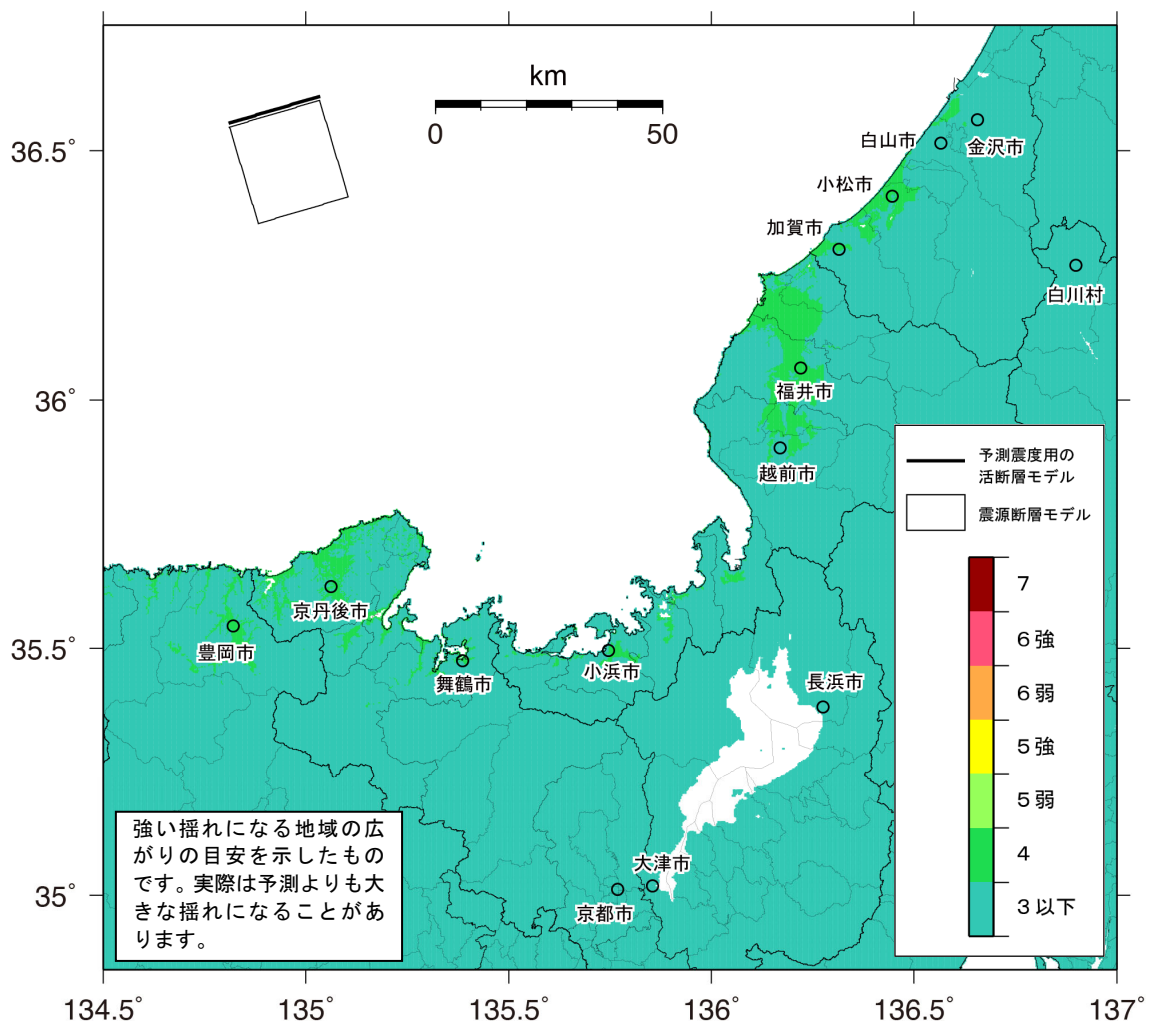
浦島礁北方北断層は、浦島礁の北方に位置する北北西－南南東走向の長さ約 40 km の左横ずれ断層です。

浦島礁北方北断層全体が一度に活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】若狭海丘列北縁断層の地震による予測震度分布（簡便法）

若狭海丘列北縁断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

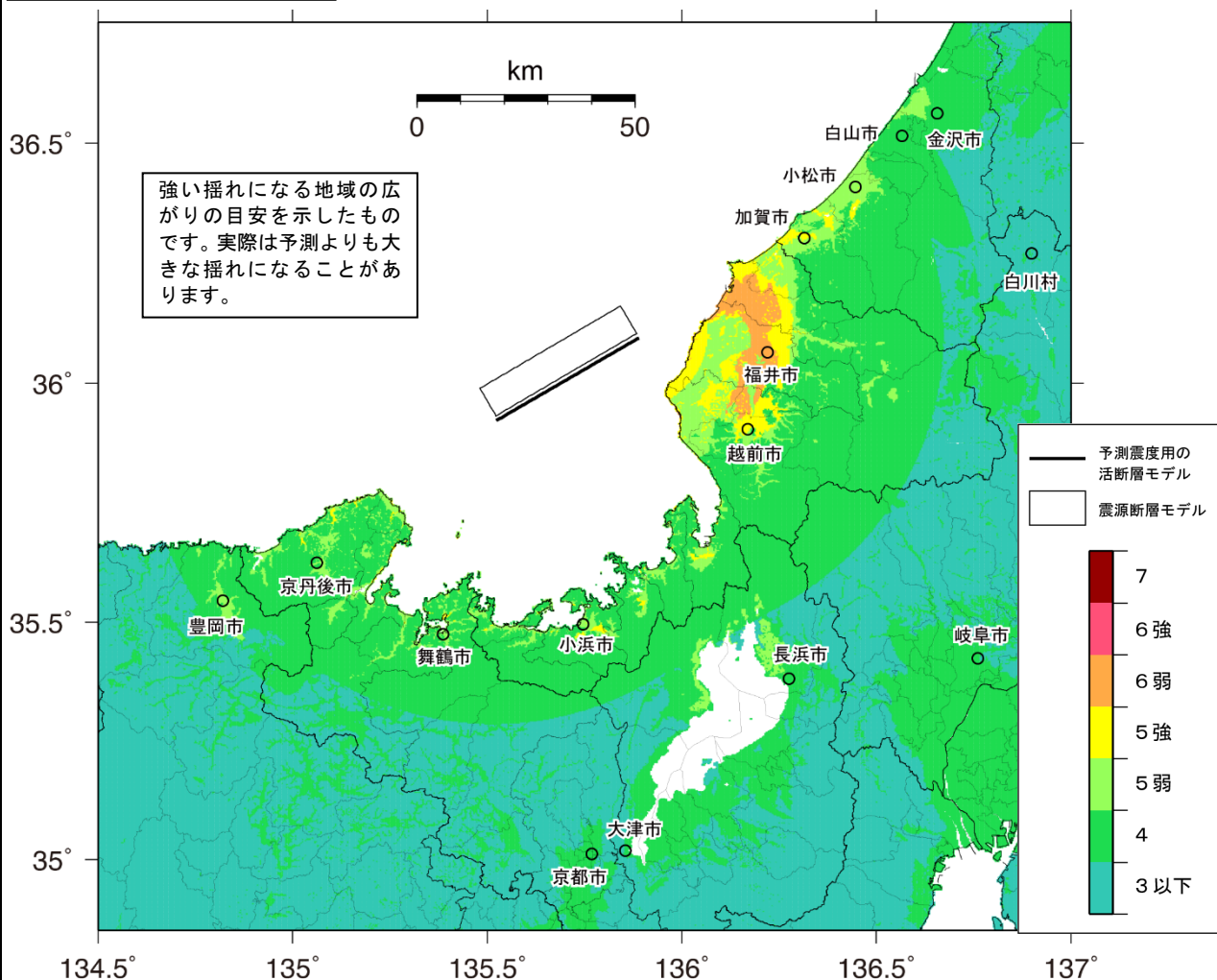
若狭海丘列北縁断層は、若狭海丘列の北側斜面の基底に形成された東北東－西南西走向で長さ約 21 km の南側隆起の逆断層です。

若狭海丘列北縁断層全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】越前岬西方沖北断層の地震による予測震度分布（簡便法）

越前岬西方沖北断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

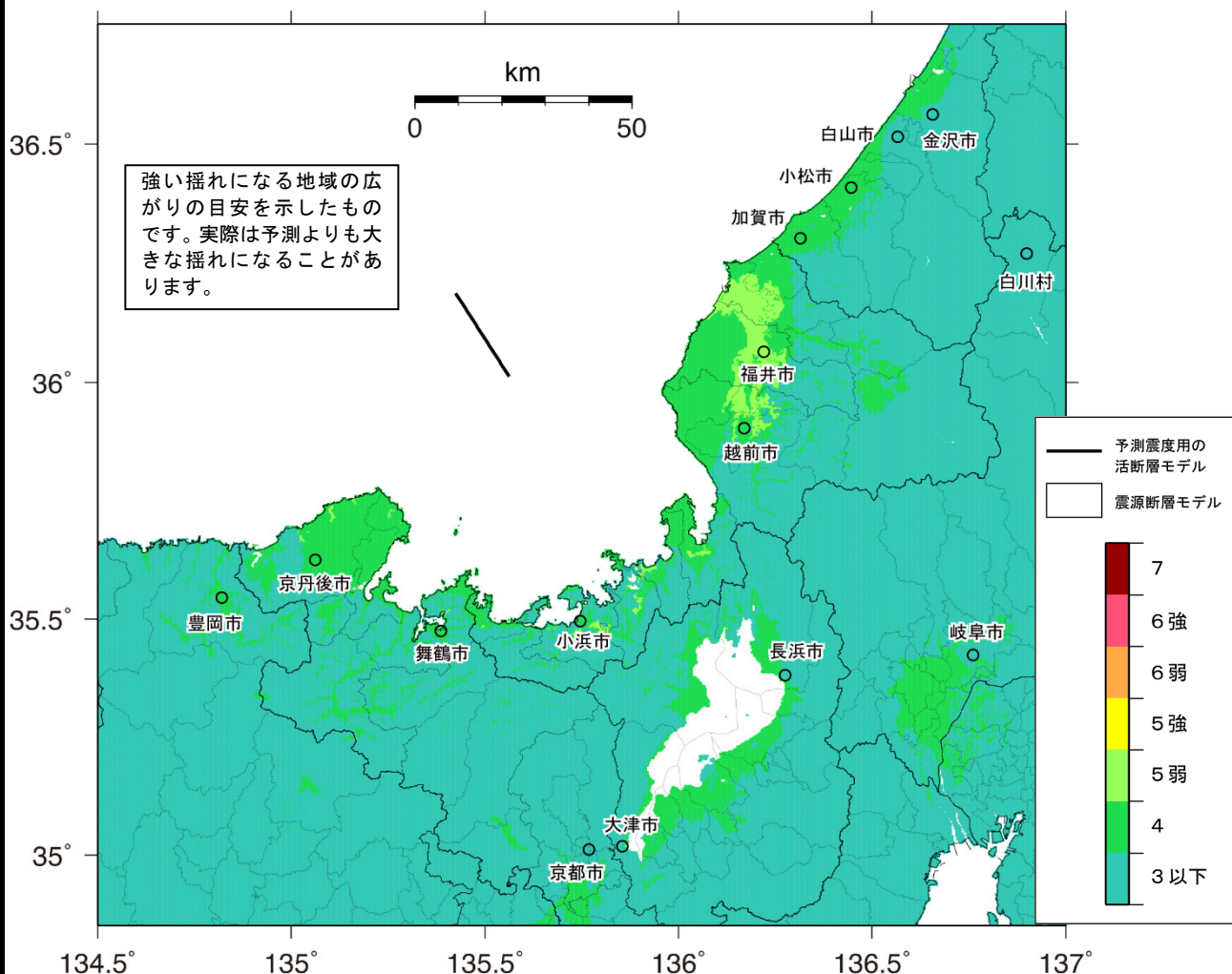
越前岬西方沖北断層は、東北東－西南西走向で右横ずれ成分を伴う北西側隆起の逆断層で、全体の長さは約 38 km に達します。

越前岬西方沖北断層全体が一度に活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】浦島礁北東断層の地震による予測震度分布（簡便法）

浦島礁北東断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

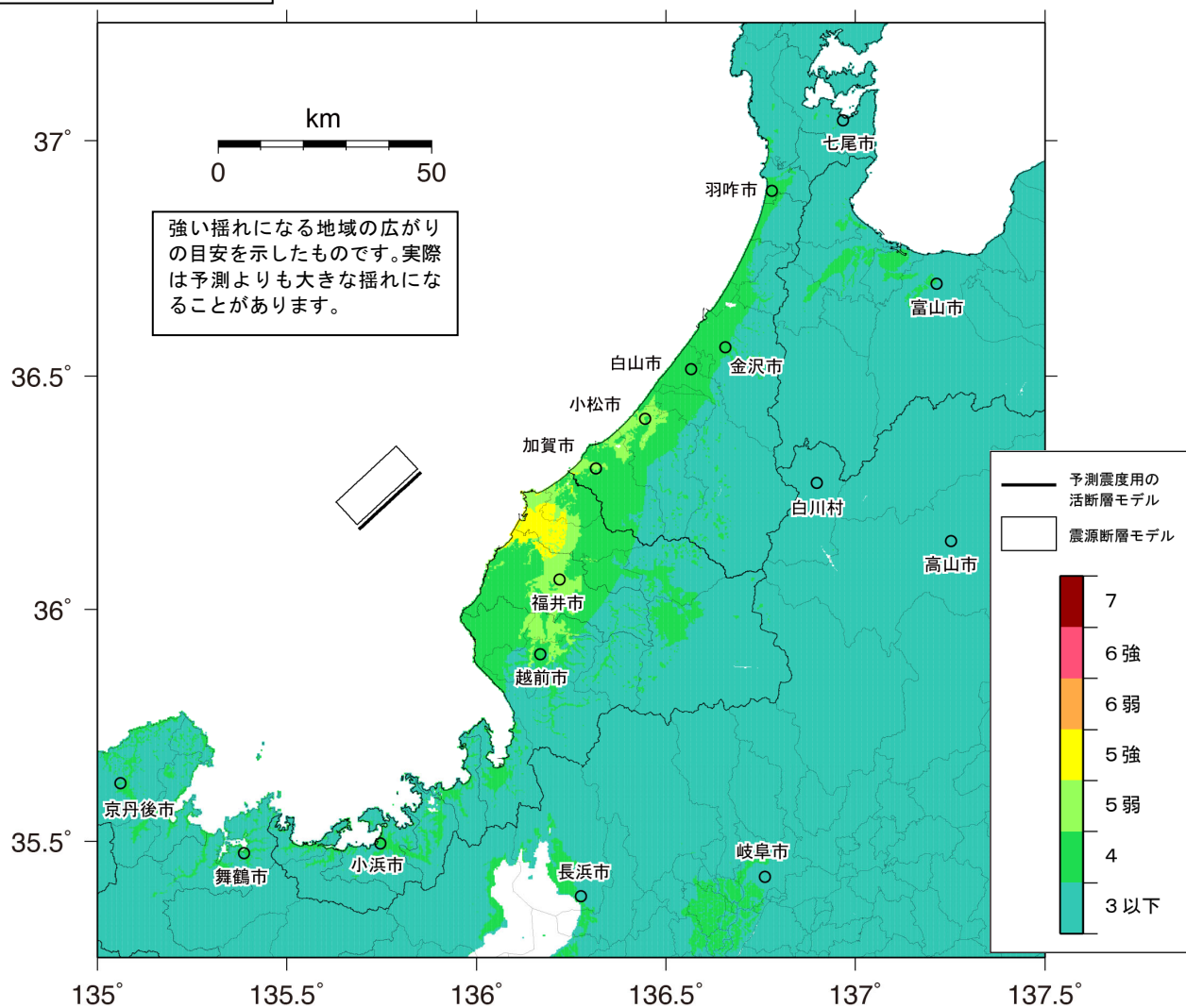
浦島礁北東断層は、浦島礁とゲンタツ瀬の中間付近から北北西方向に約 23 km 連続する左横ずれ断層です。

浦島礁北東断層全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】 ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

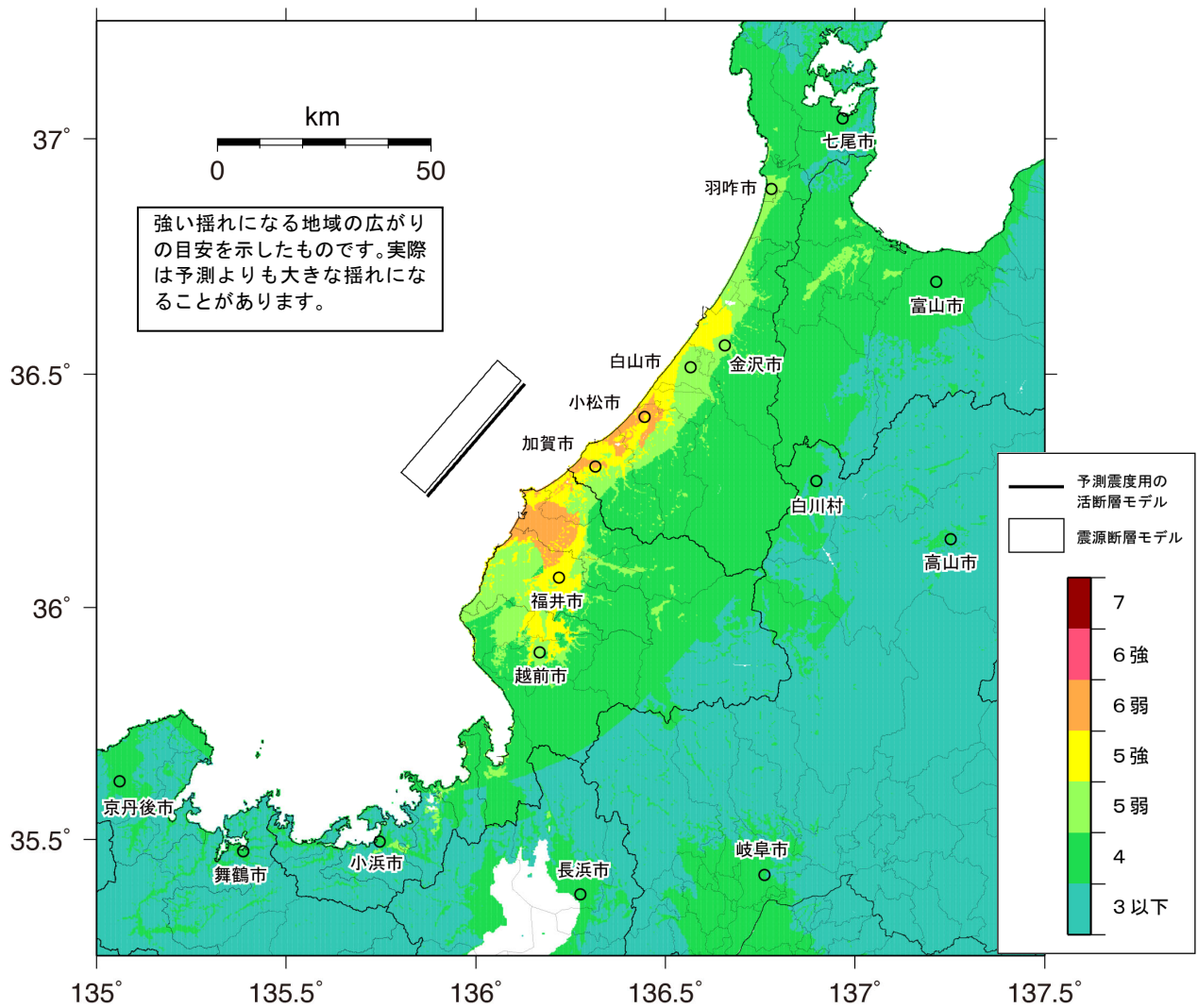
ゲンタツ瀬区間



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

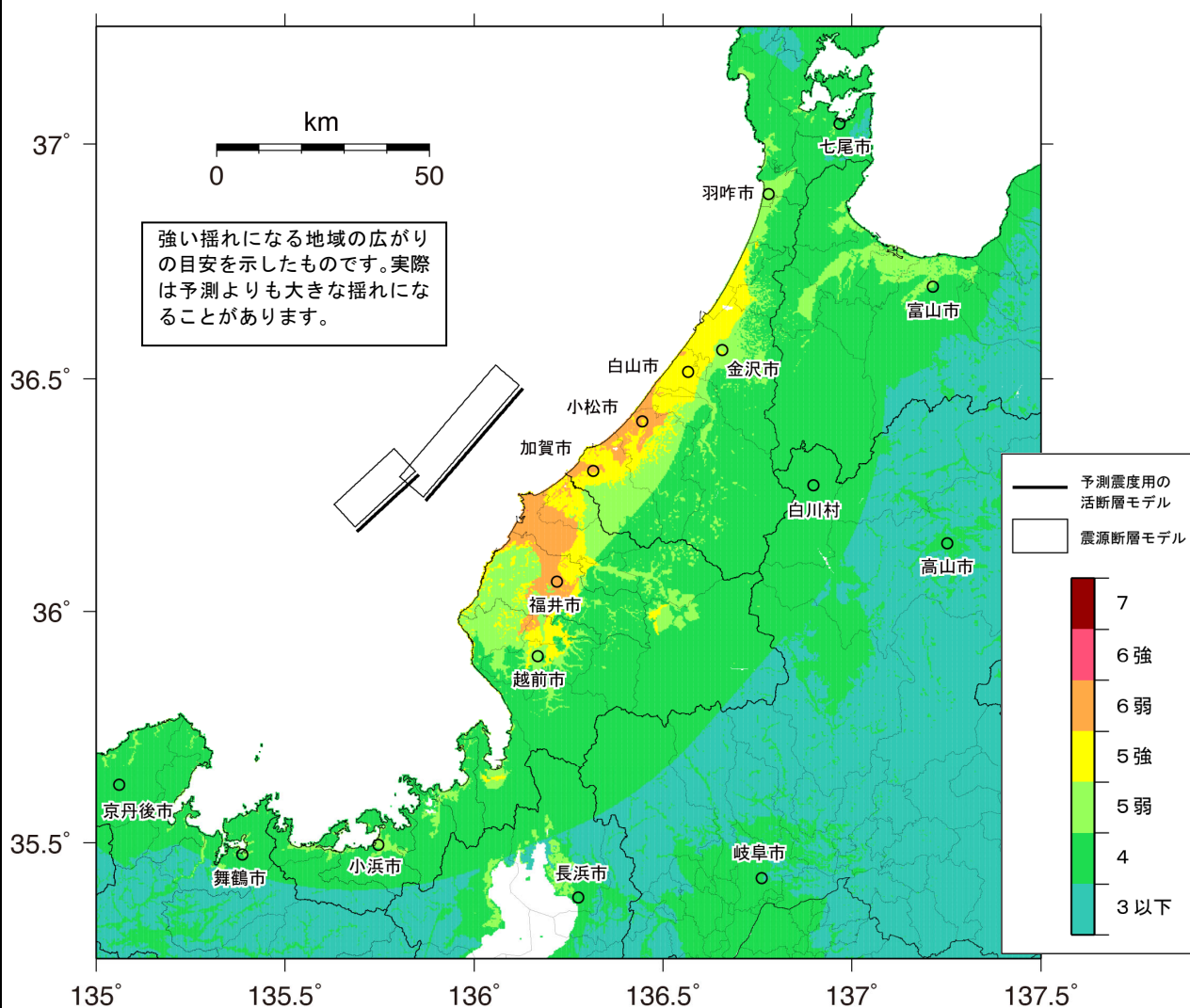
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生成を示しています。

大グリ区間



活断層モデル : 本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル : 活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（ゲンタツ瀬区間・大グリ区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯は、全体として長さ約 52 km に達する断層帯で、南西側のゲンタツ瀬区間と北東側の大グリ区間からなります。

ゲンタツ瀬区間は越前岬の北方沖約 30 km に位置し、北東－南西走向で長さ約 20 km の右横ずれ成分を伴う北西側隆起の逆断層です。ゲンタツ瀬区間全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。

大グリ区間は長さ約 35 km の南東側隆起の逆断層です。大グリ区間全体が一度に活動した場合、M7.4 程度の地震が発生する可能性があります。

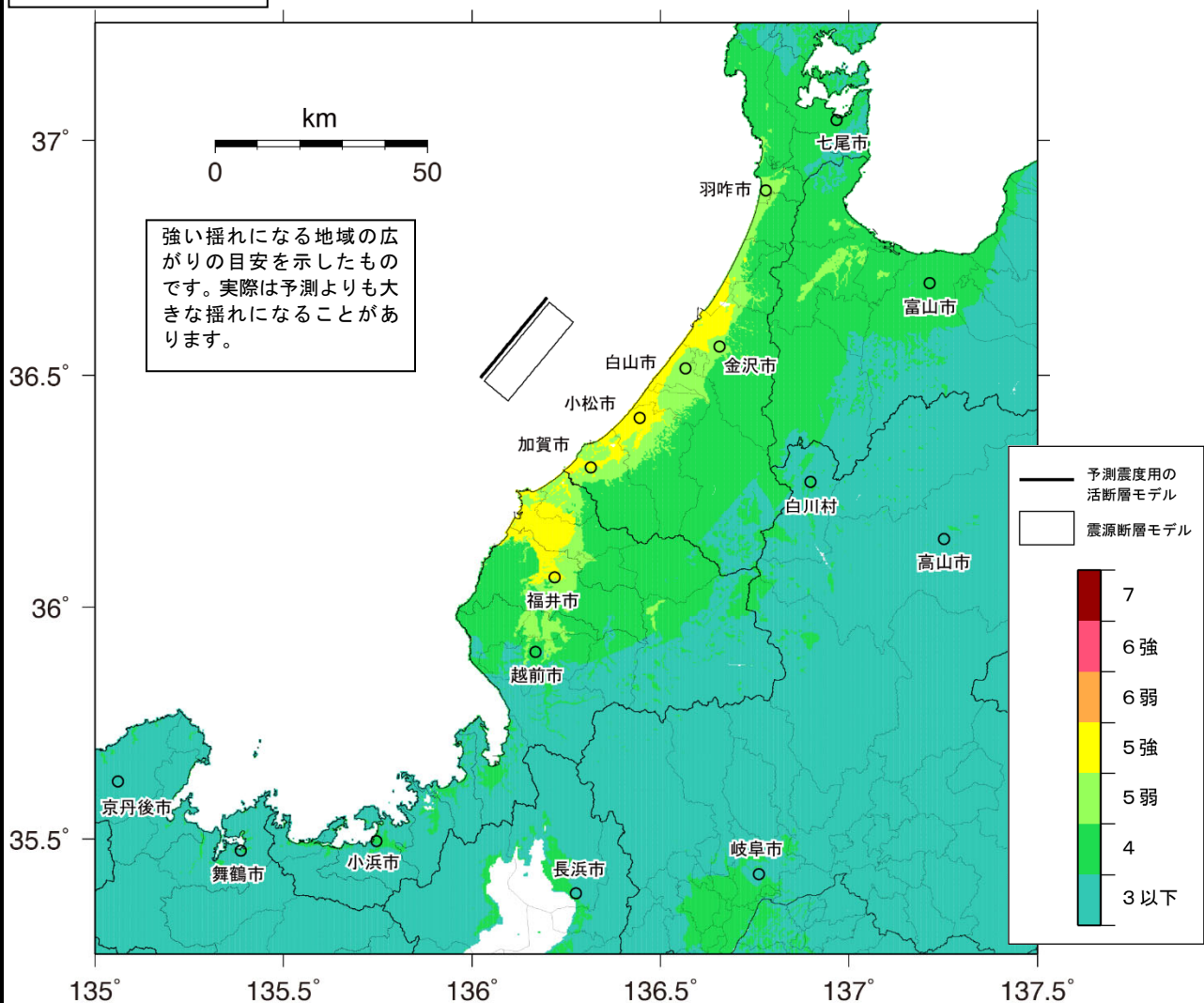
ゲンタツ瀬区間と大グリ区間が一度に活動した場合は M7.7 程度の規模の地震になる可能性があります。

前3ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】加佐ノ岬沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

加佐ノ岬沖断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

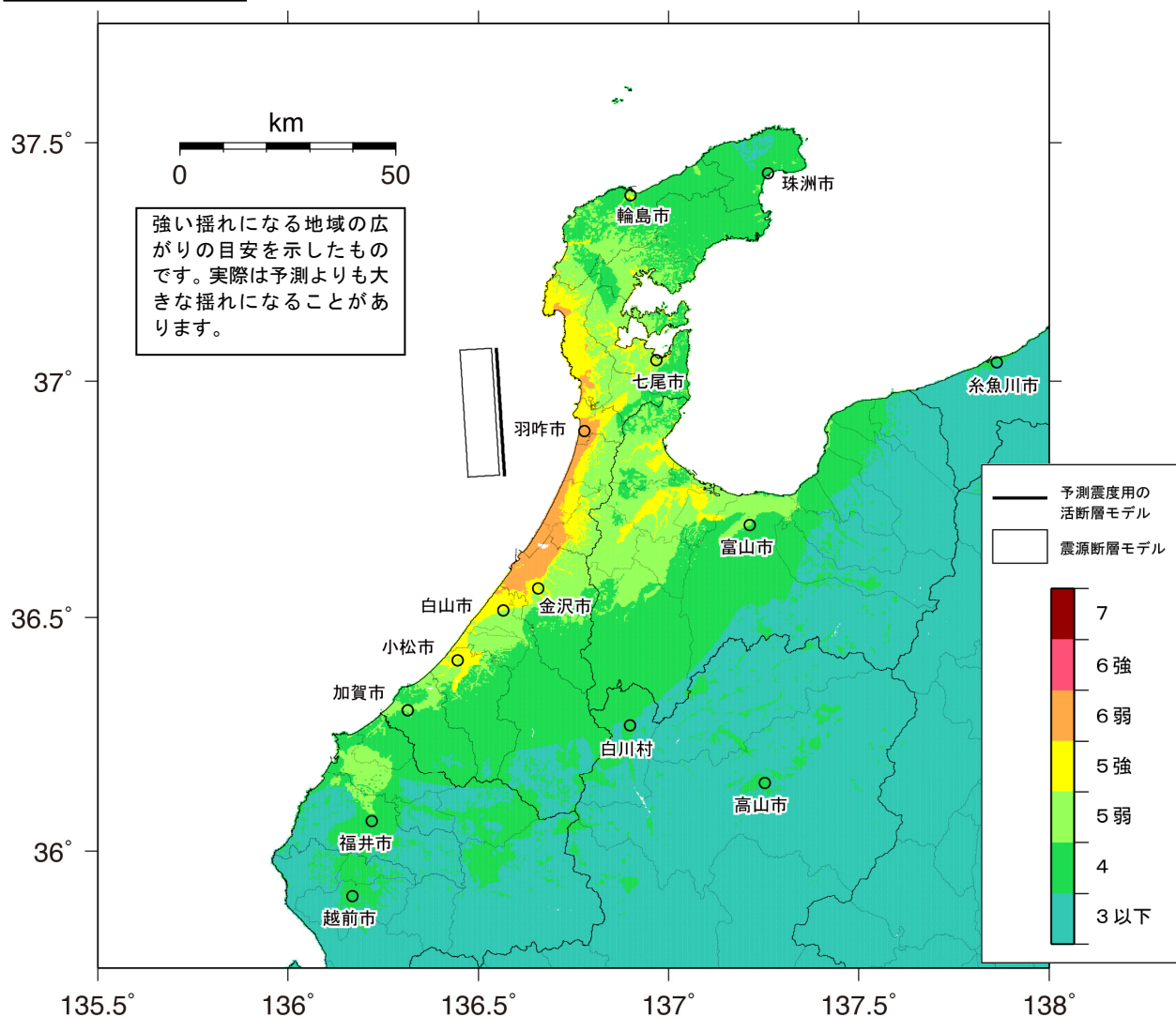
加佐ノ岬沖断層は、ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯の北東側に位置する北東－南西走向で長さ約25 km の南東側隆起の逆断層です。

加佐ノ岬沖断層全体が一度に活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】羽咋沖東断層の地震による予測震度分布（簡便法）

羽咋沖東断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

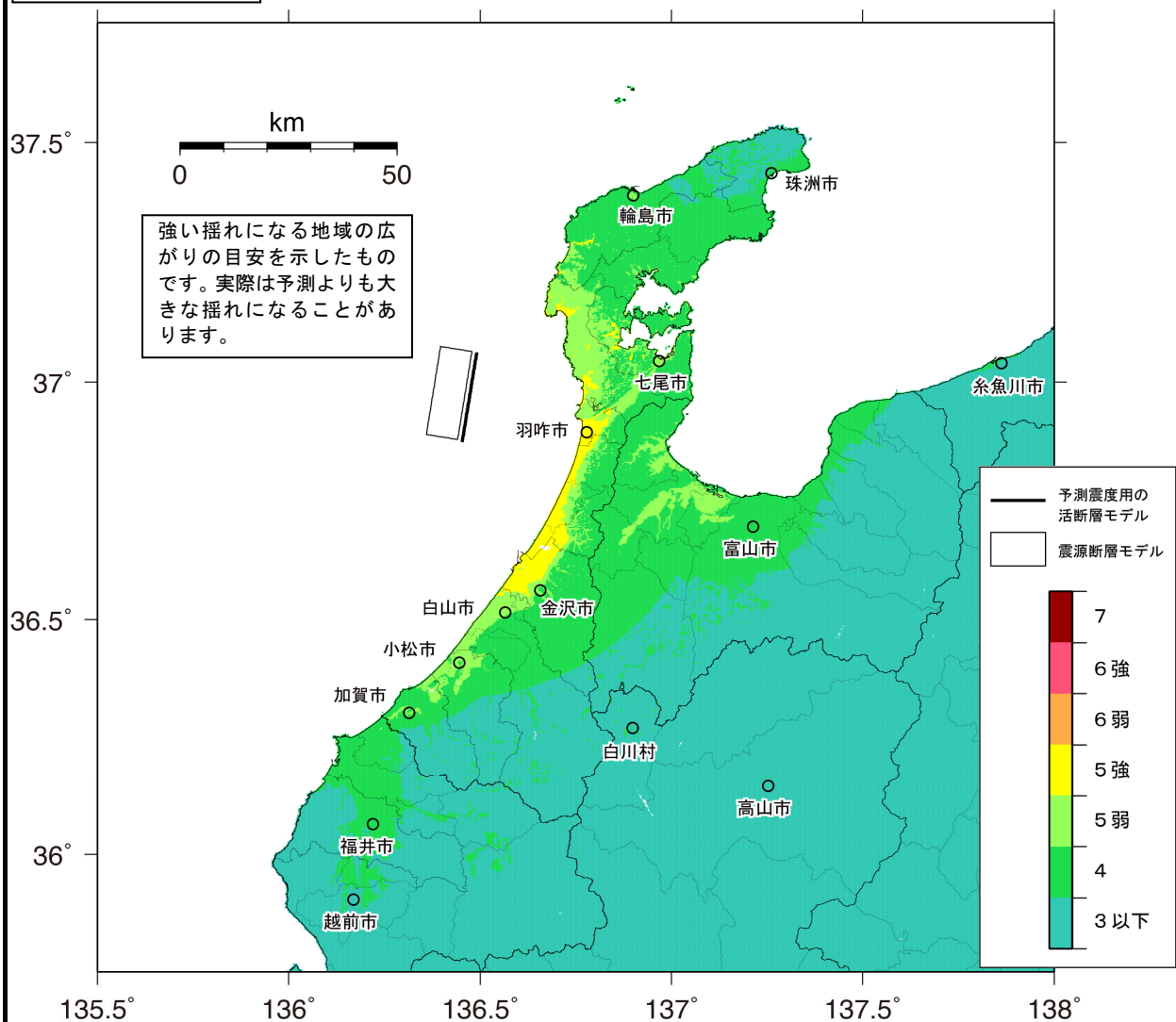
羽咋沖東断層は、石川県羽咋市の西方沖に形成されたほぼ南北走向で長さ約 30 km の西側隆起の逆断層です。

羽咋沖東断層全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】羽咋沖西断層の地震による予測震度分布（簡便法）

羽咋沖西断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

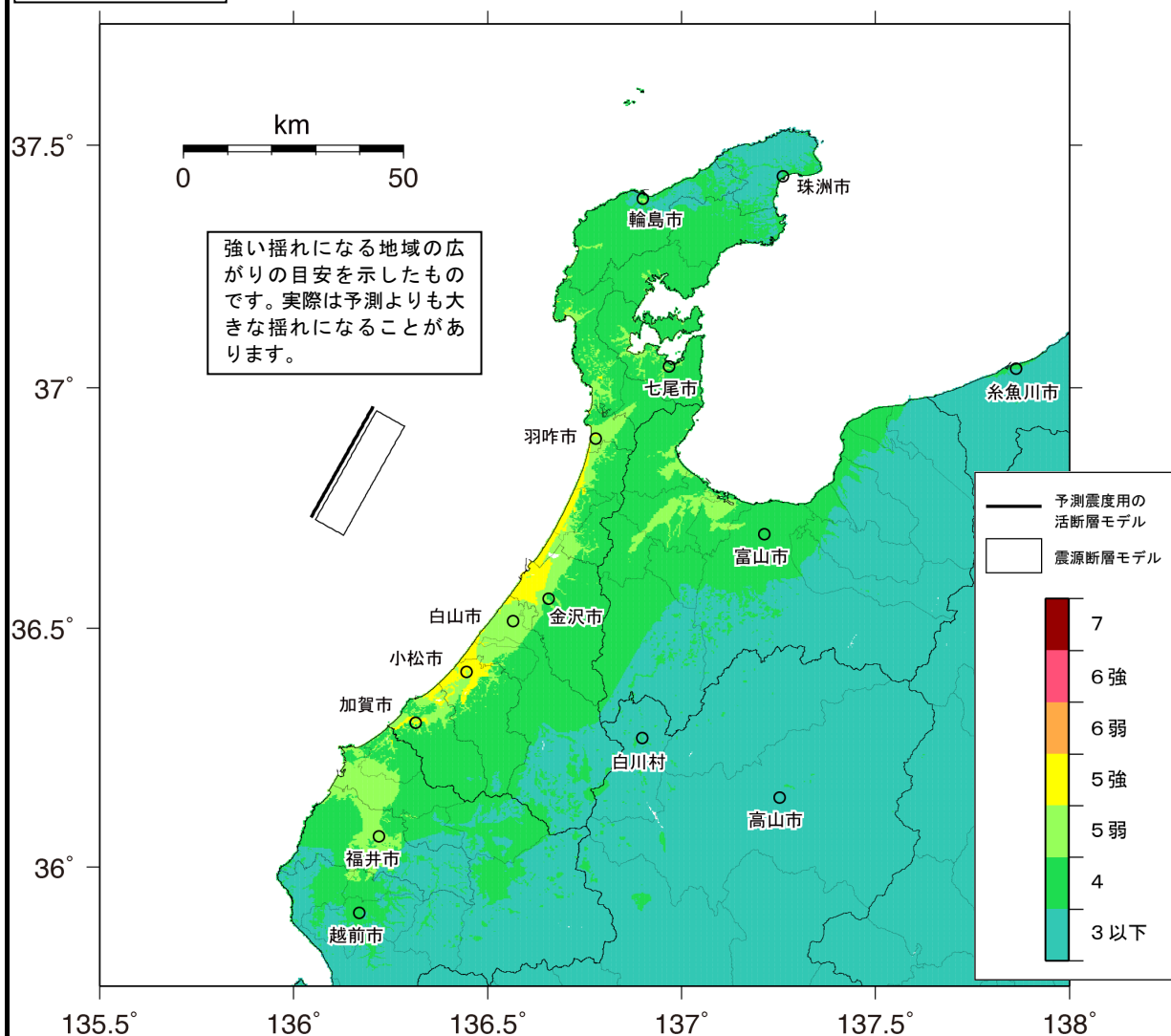
羽咋沖西断層は、羽咋沖東断層の西方約 10－15 km に位置する北北東－南南西走向の長さ約 21 km の西側隆起の逆断層です。

羽咋沖西断層全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】内灘沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）

内灘沖断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

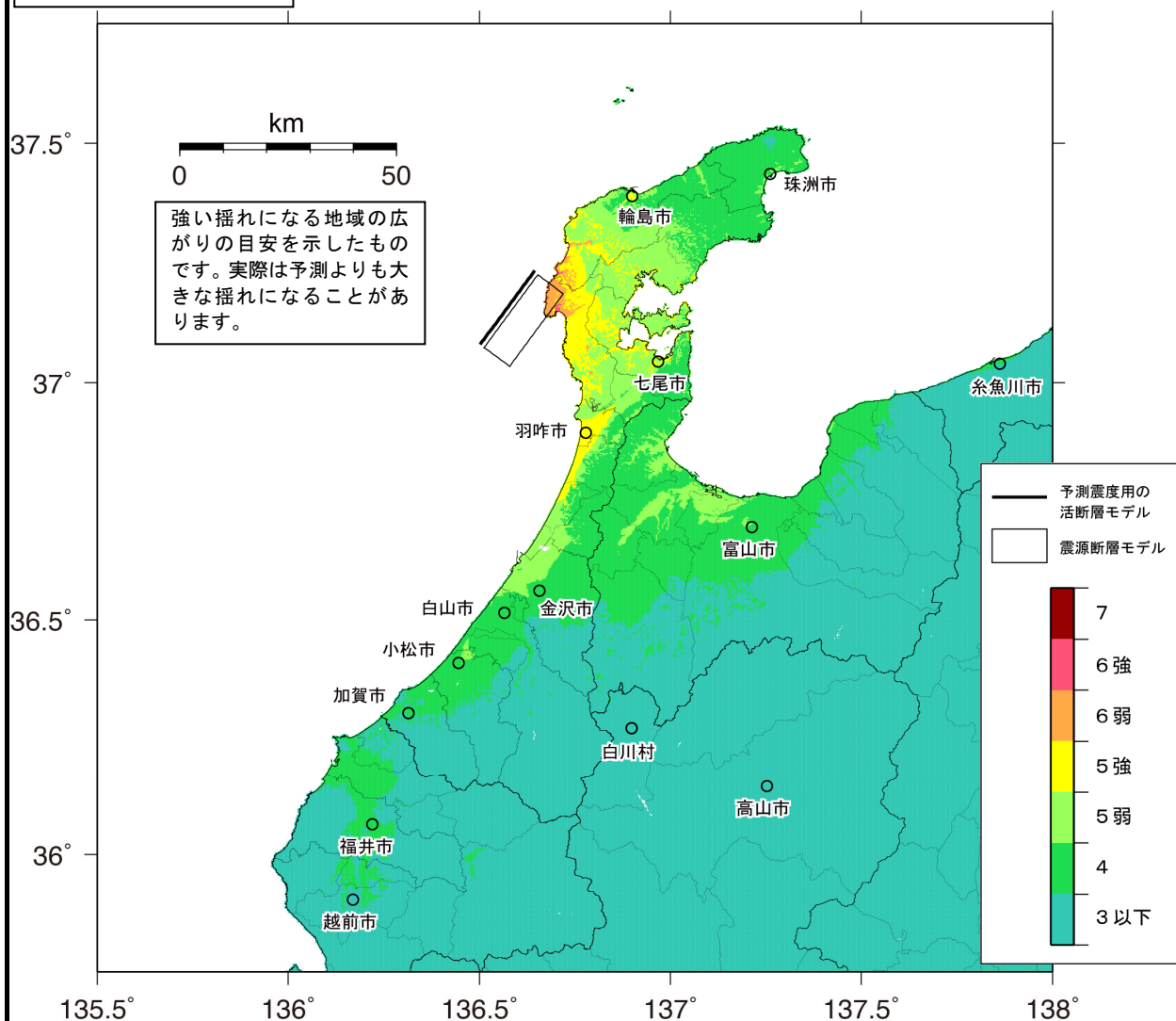
内灘沖断層は、加佐ノ岬沖断層の約 20 km 北方に形成された、長さ約 29 km で北東－南西走向の南東側隆起の逆断層です。

内灘沖断層全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります

【参考】海士岬沖東断層の地震による予測震度分布（簡便法）

海士岬沖東断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

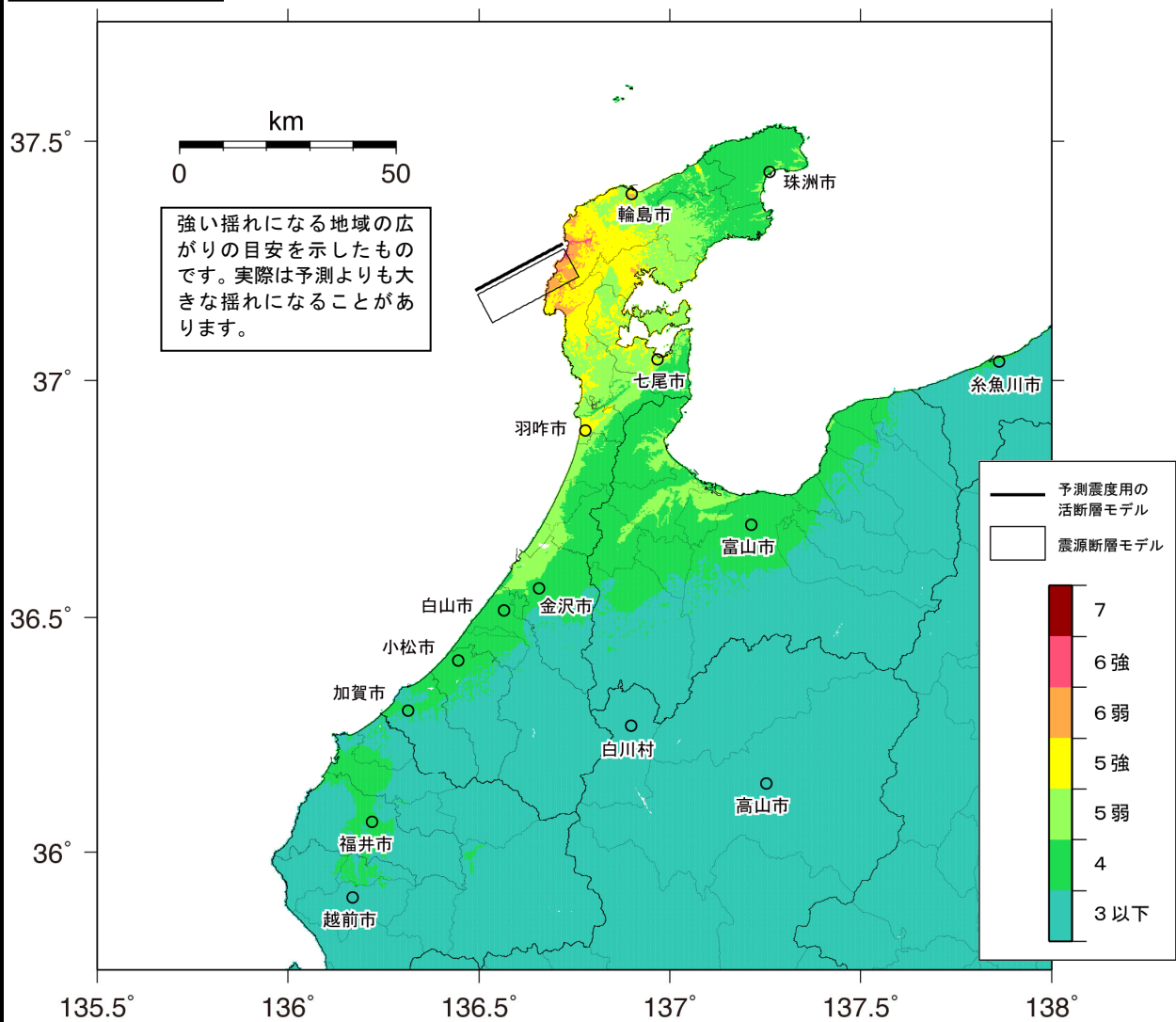
海士岬沖東断層は、能登半島西岸に位置する海士岬の西方沖に形成された北東－南西走向の長さ約 21 km の南東側隆起の逆断層です。

海士岬沖東断層全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります

【参考】 門前断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

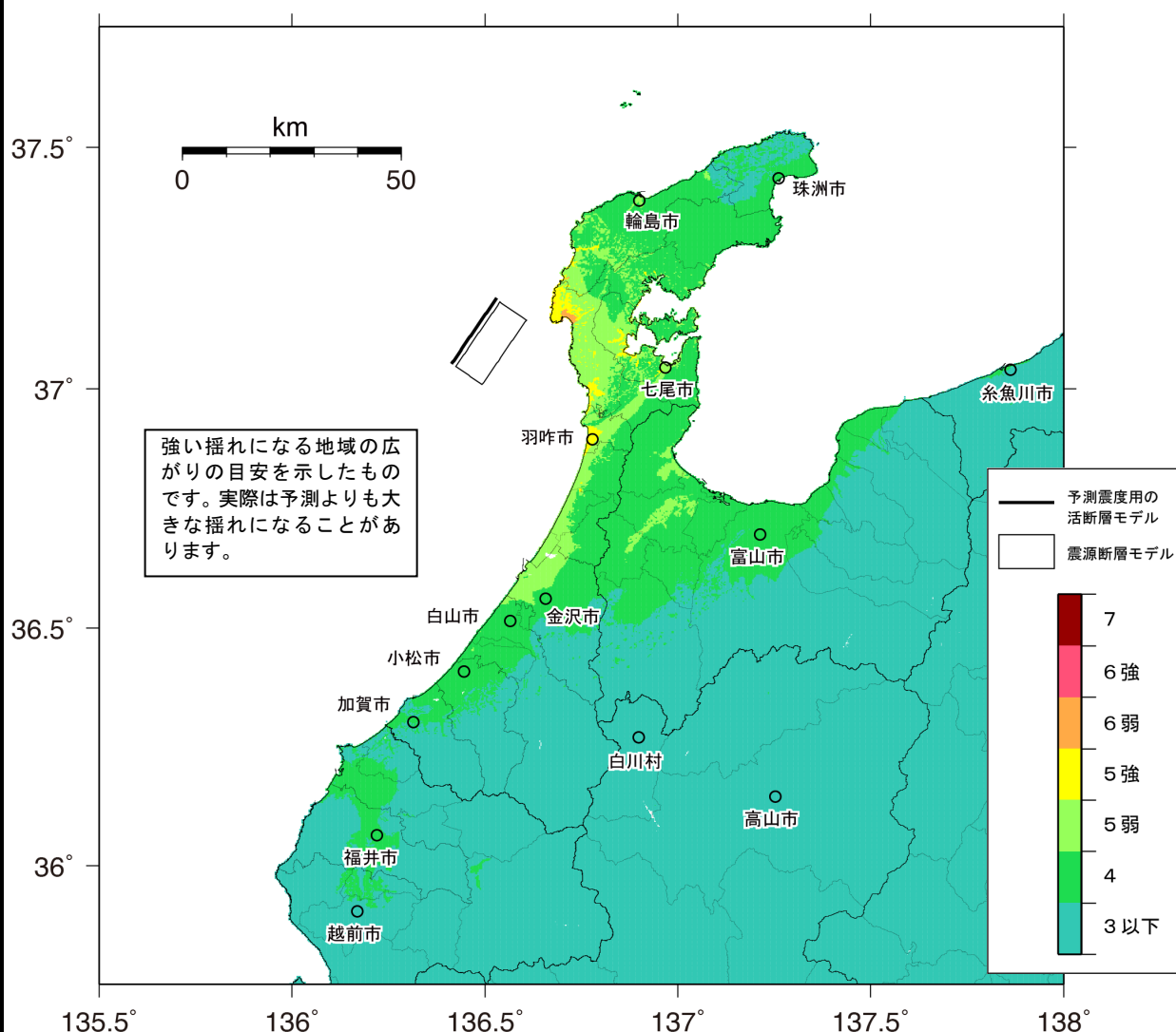
門前沖区間



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

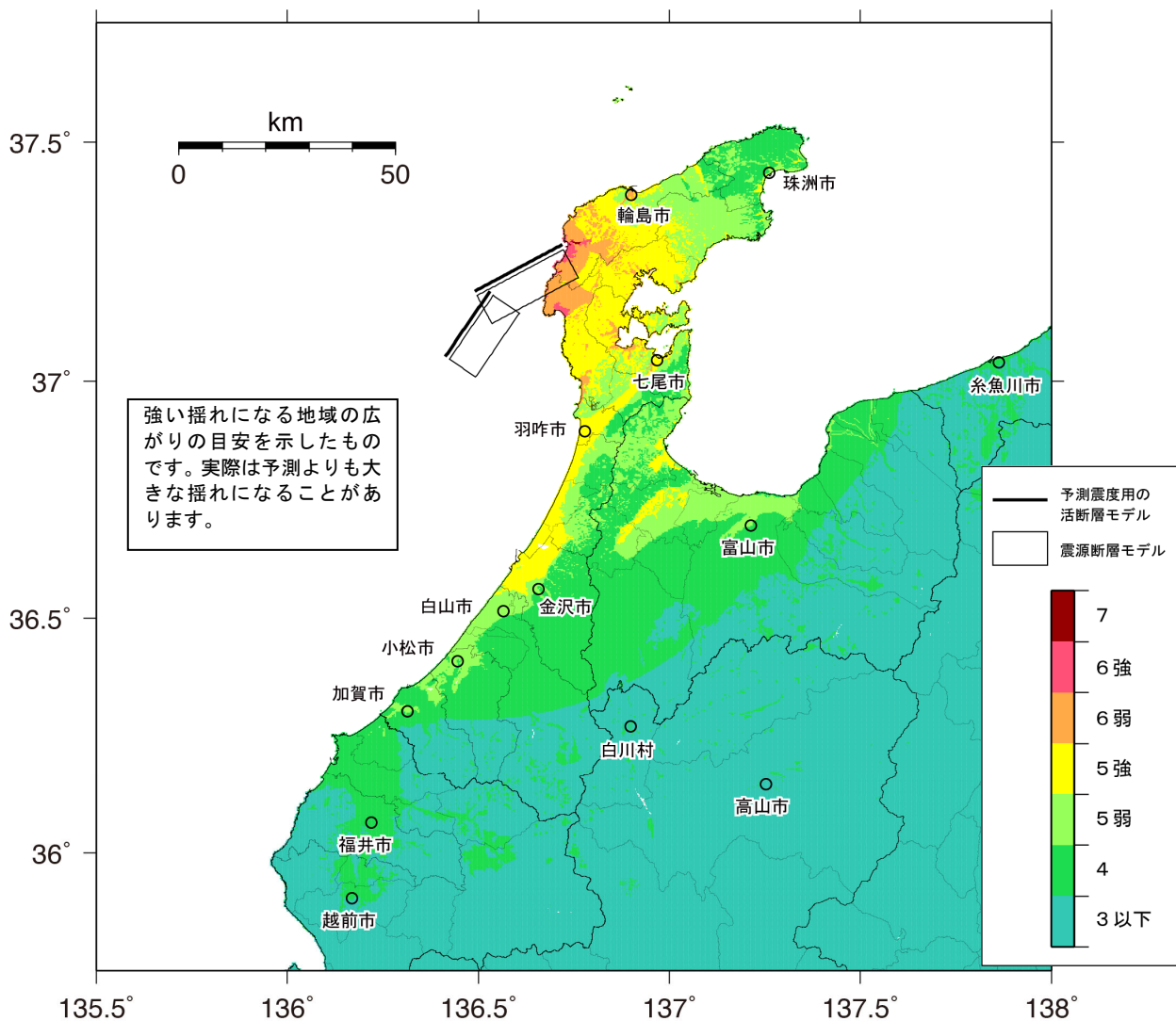
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

海士岬沖区間



活断層モデル : 本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル : 活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（門前沖区間・海士岬沖区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

門前断層帯は、能登半島北西部に位置する石川県輪島市門前町の西方沖に形成されている東北東－西南西走向の長さ約 38 km の南東側隆起の逆断層で、北東側の門前沖区間と南西側の海士岬沖区間に区分されます。

門前沖区間は、門前の西方沖に形成された東北東－西南西走向の長さ約 23 km の右横ずれ成分を伴う南東側隆起の逆断層です。門前沖区間全体が一度に活動した場合、その地震の規模は M7.1 程度になる可能性があります。

海士岬沖区間は、門前沖区間の南西側に形成された北東－南西走向の長さ約 18 km の南東側隆起の逆断層です。海士岬沖区間全体が一度に活動した場合、M6.9 程度の地震が発生する可能性があります。

門前沖区間と海士岬沖区間が一度に活動した場合は、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。

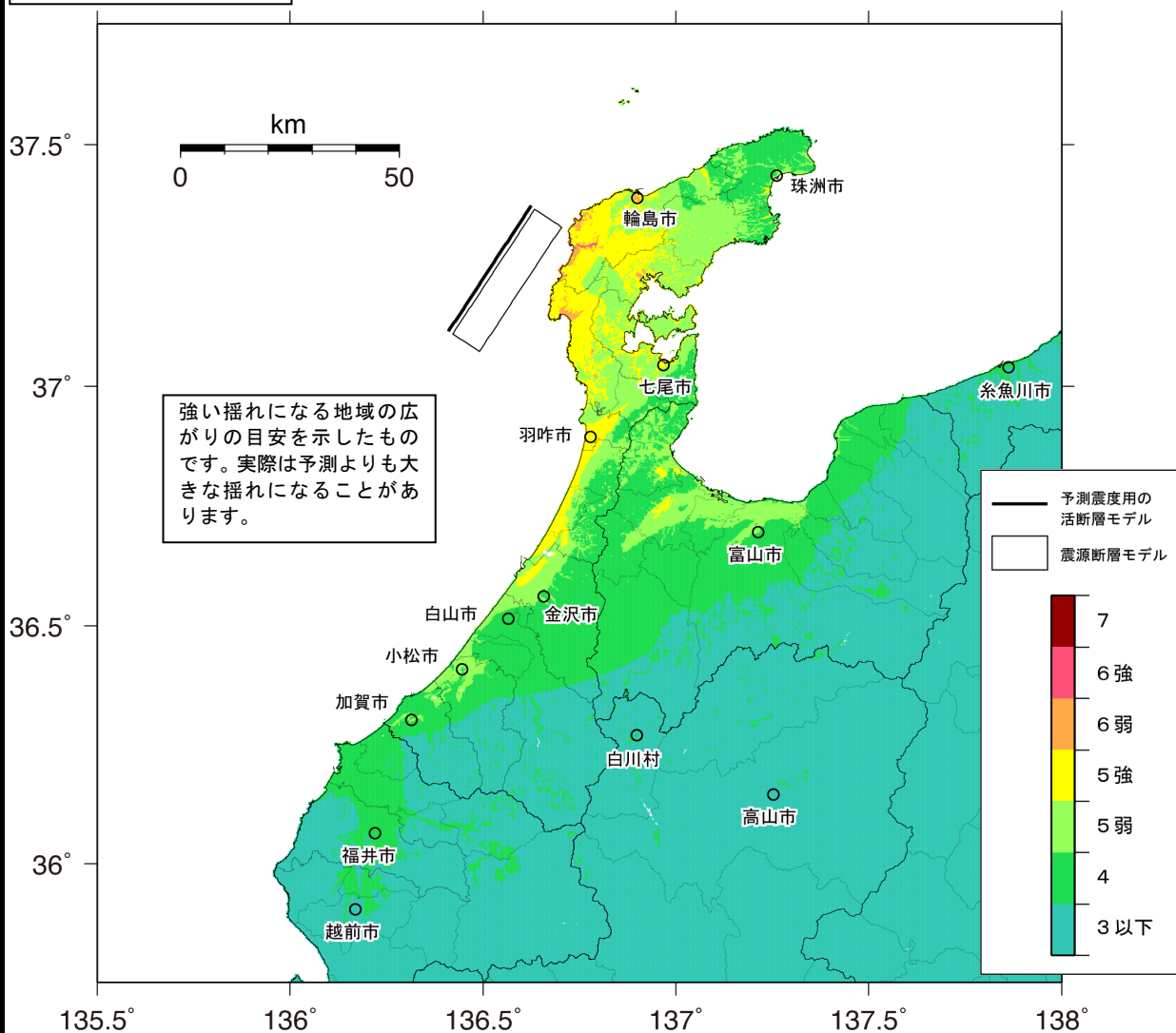
す。

前3ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】沖ノ瀬東方断層の地震による予測震度分布（簡便法）

沖ノ瀬東方断層



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

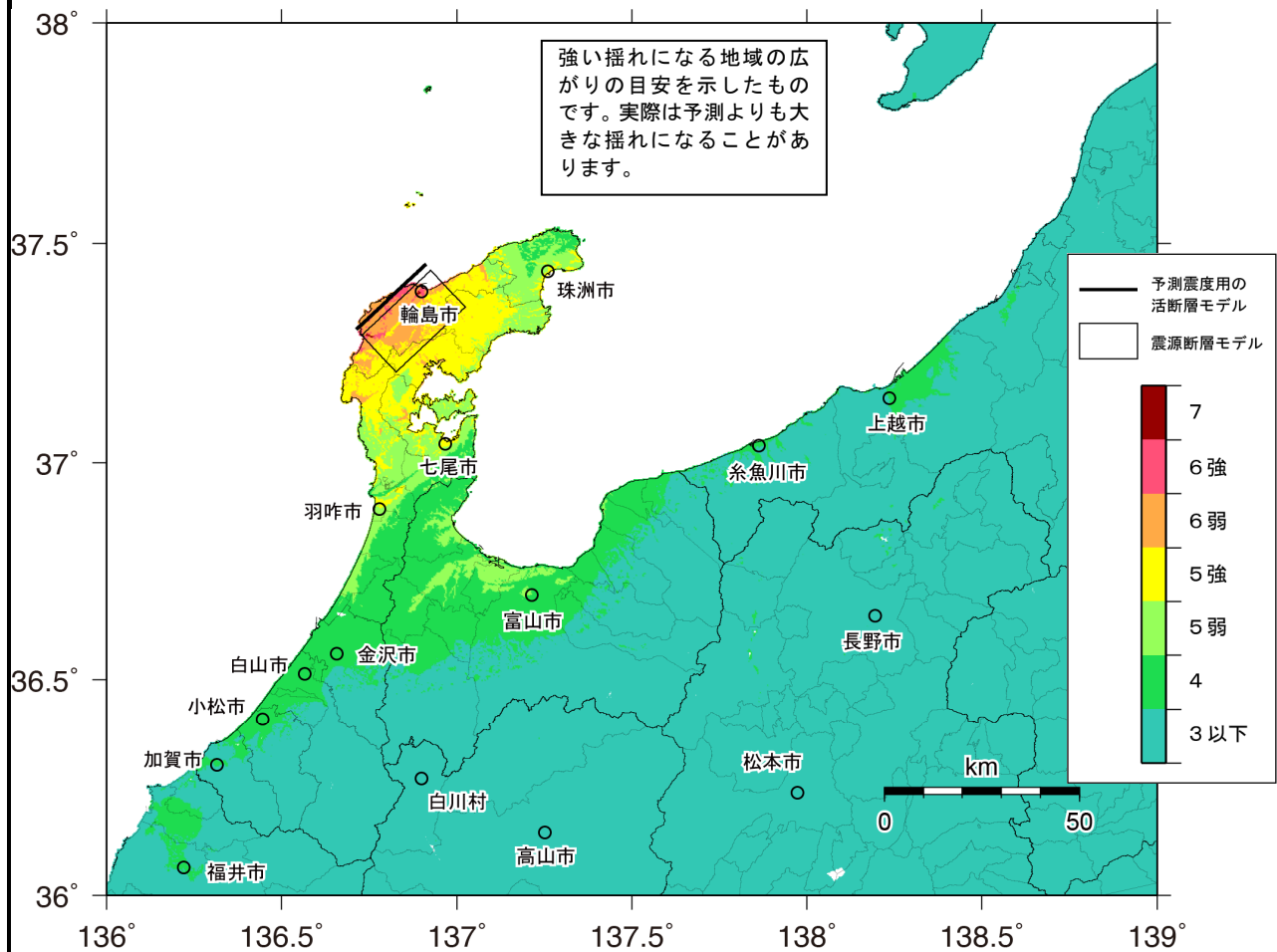
沖ノ瀬東方断層は、門前断層帯の北西側に位置する北東－南西走向の長さ約 35 km の南東側隆起の逆断層です。

沖ノ瀬東方断層全体が一度に活動した場合に想定される地震規模は M7.4 程度で、その際には逆断層成分を主体として 4 m 程度の変位が生じる可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】能登半島北岸断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

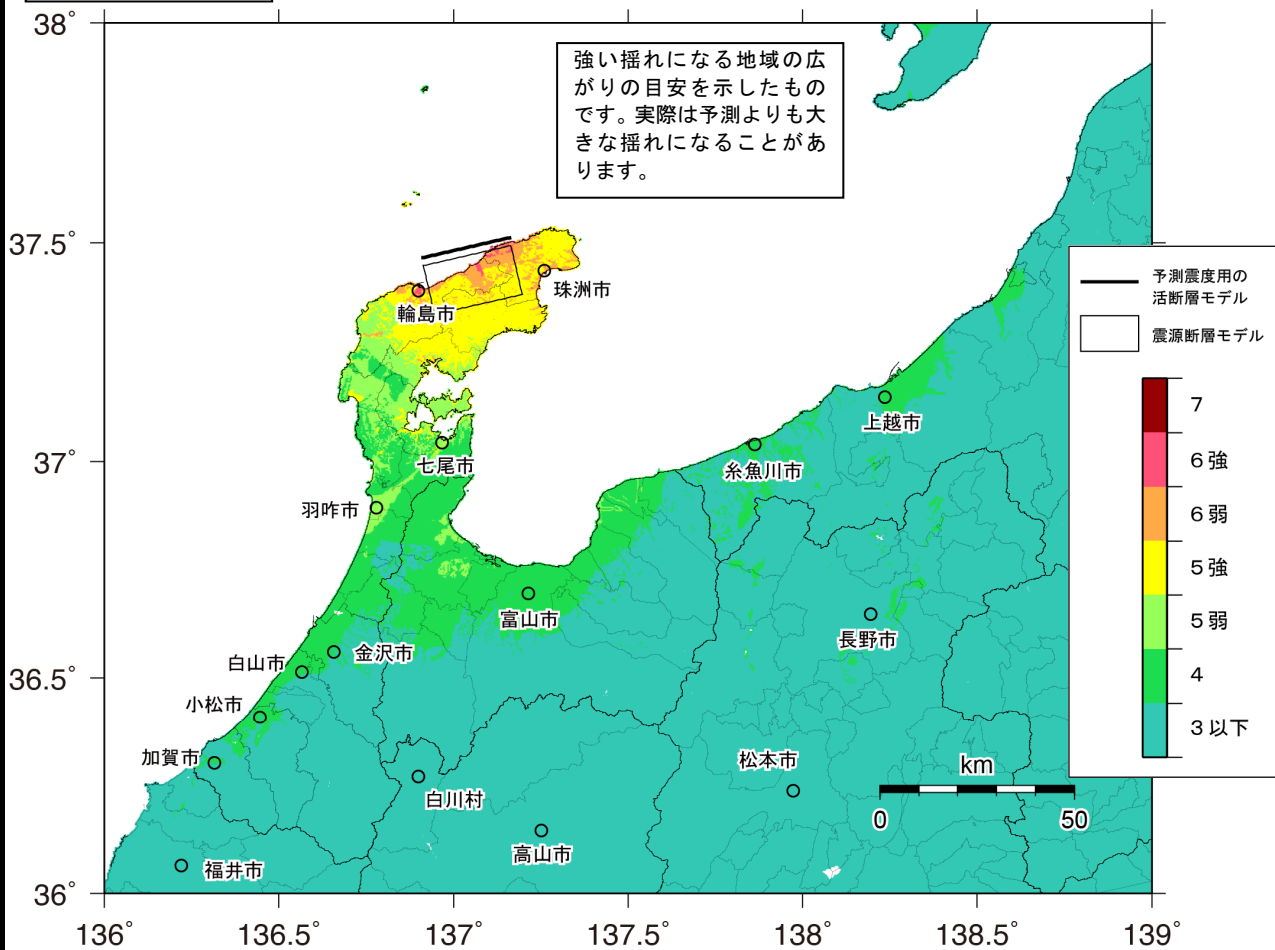
猿山沖区間



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

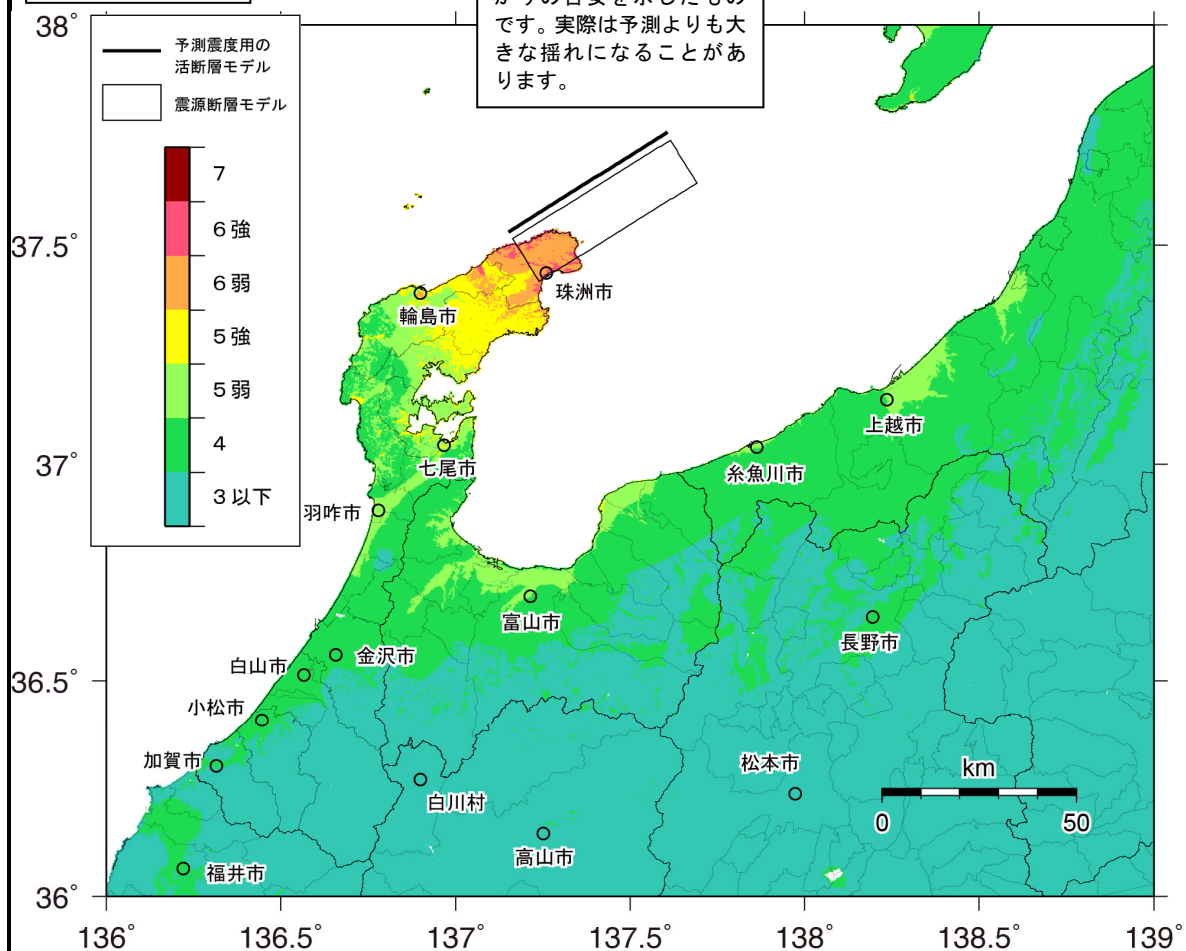
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

輪島沖区間



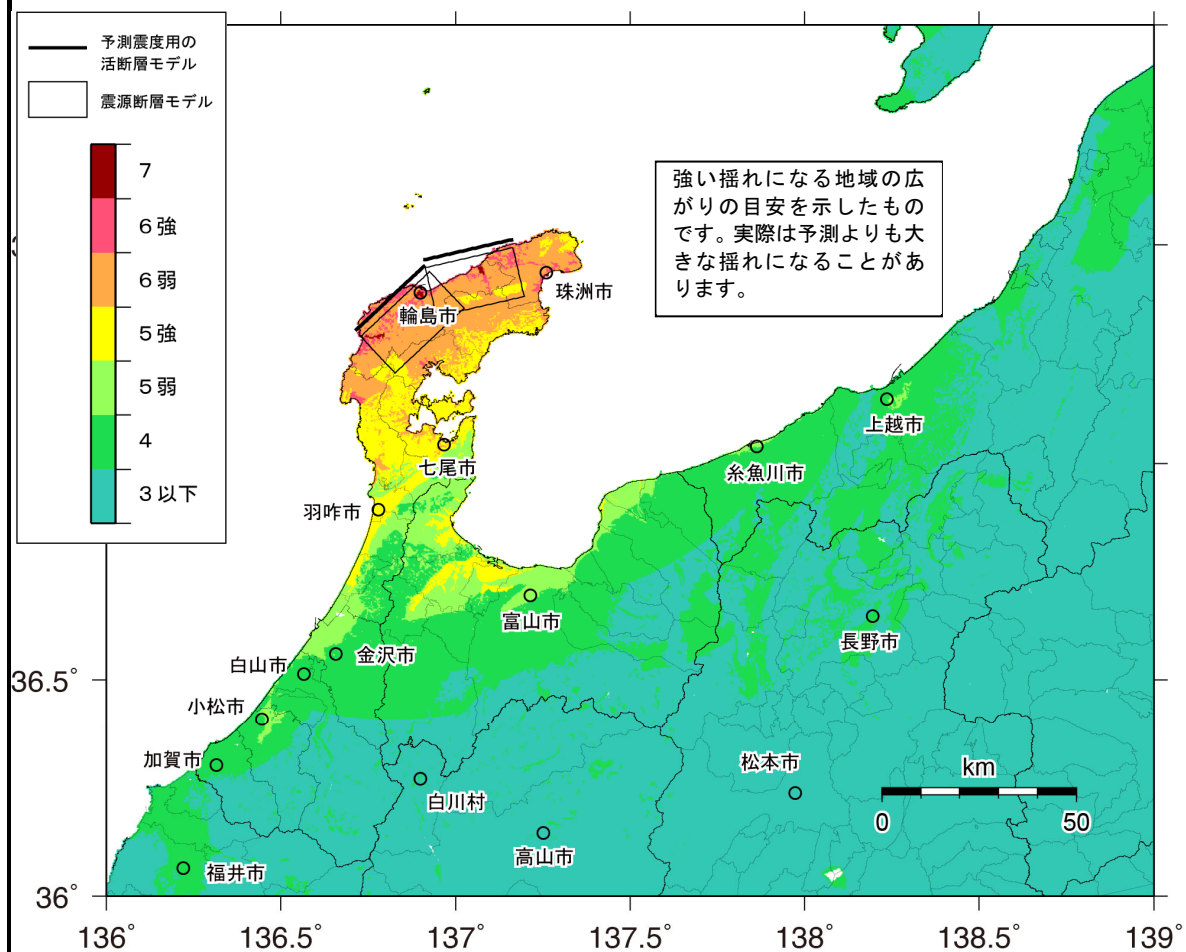
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

珠洲沖区間



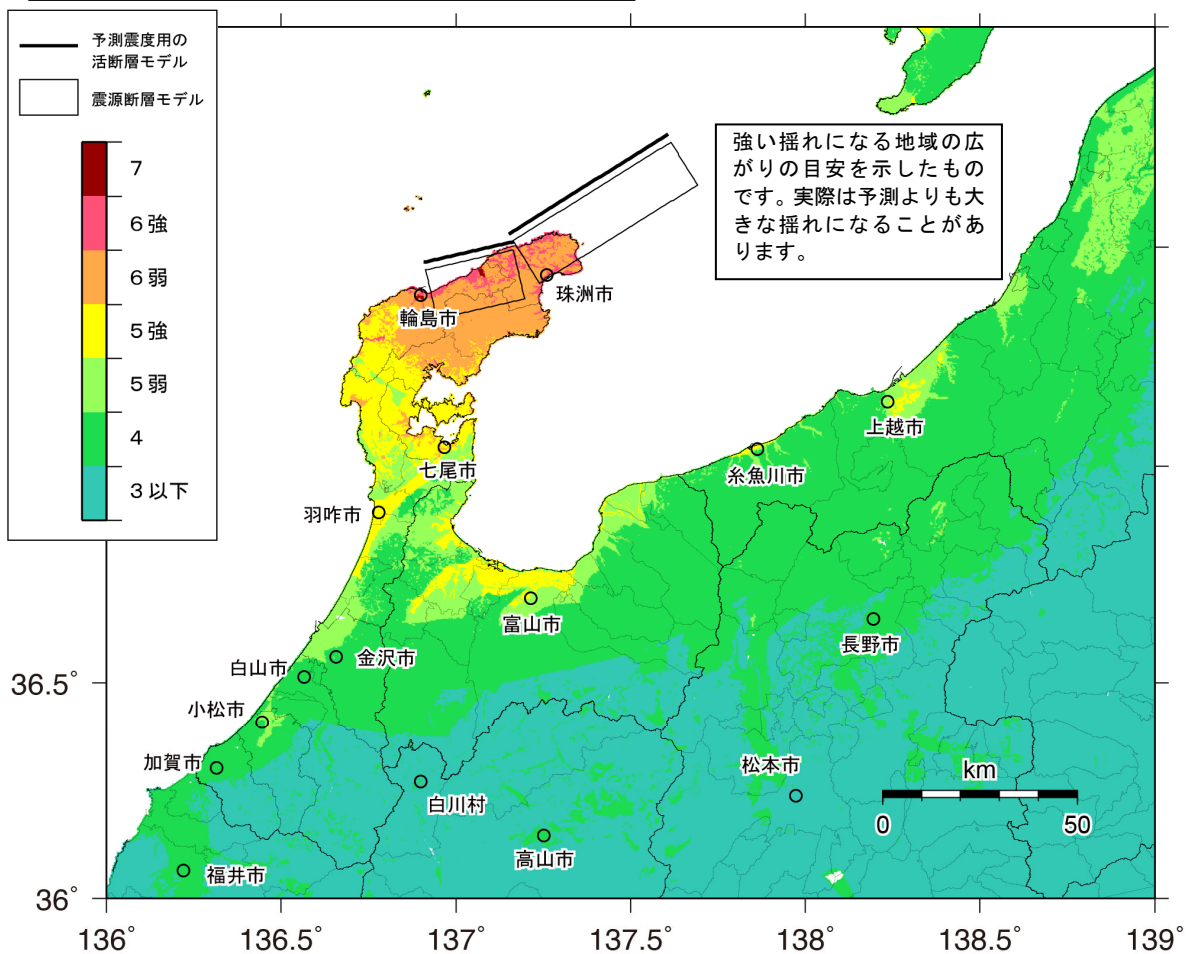
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（猿山沖区間・輪島沖区間）



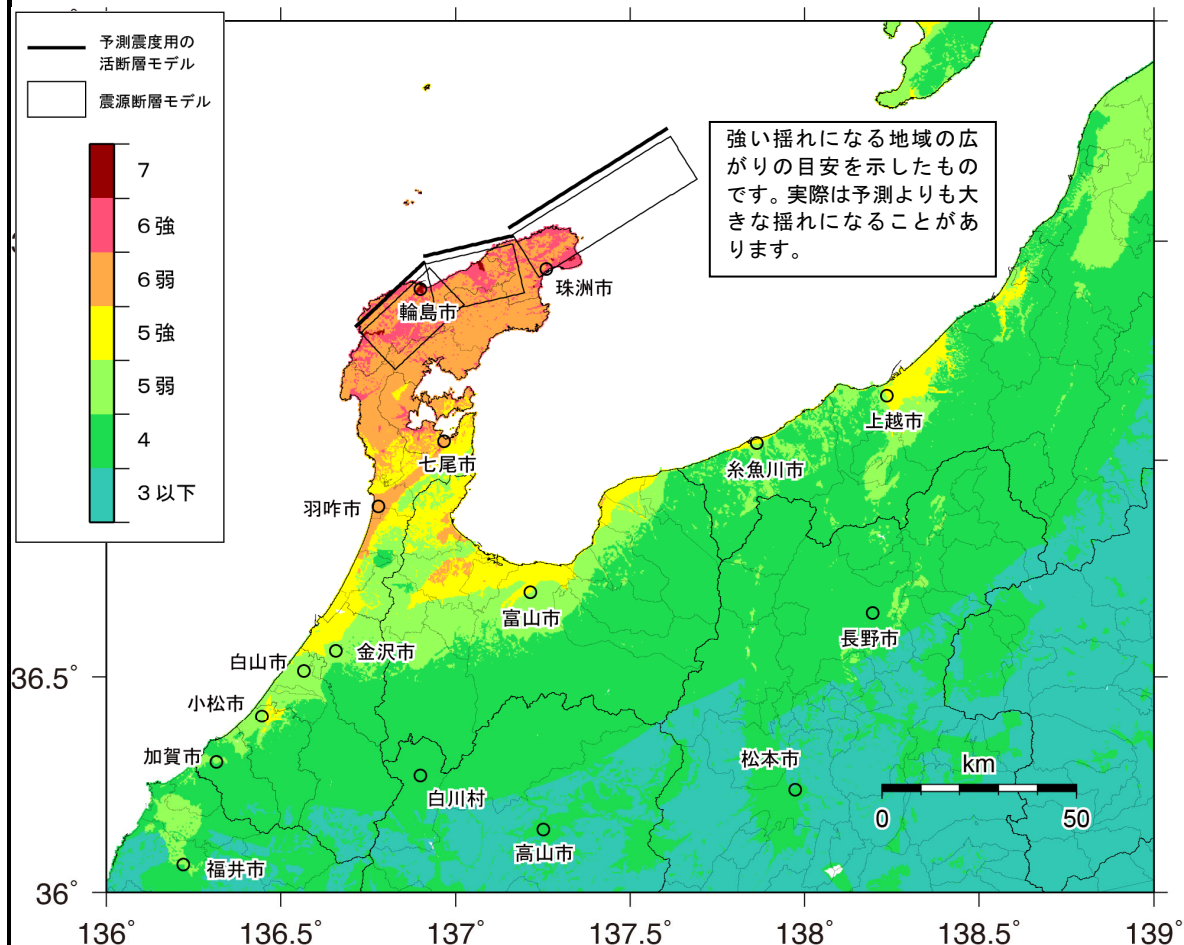
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（輪島沖区間・珠洲沖区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（猿山沖区間・輪島沖区間・珠洲沖区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

能登半島北岸断層帯は、能登半島北岸沖からその北東沖に断続的に連続する東北東－西南西走向の長さ約 94 km の南東側隆起の逆断層です。井上・岡村（2010）に従って、西から猿山沖区間、輪島沖区間、珠洲沖区間に区分されます。

猿山沖区間は長さ約 24 km の南東側隆起の逆断層です。猿山沖区間全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。

輪島沖区間は長さ約 23 km の南東側隆起の逆断層です。輪島沖区間全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。

珠洲沖区間は長さ約 47 km の南東側隆起の逆断層です。珠洲沖区間全体が一度に活動した場合、M7.6 程度の地震が発生する可能性があります。

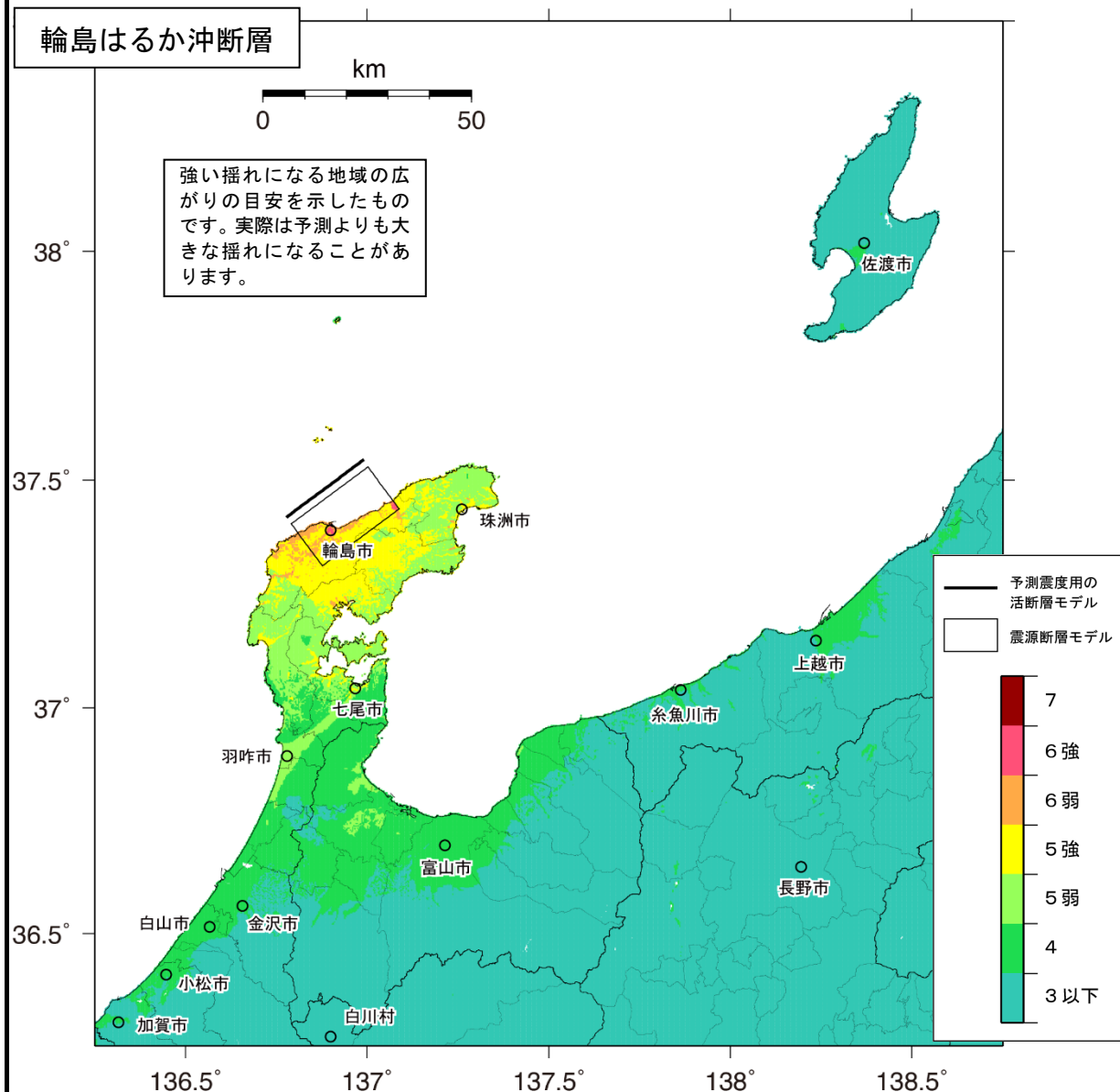
猿山沖区間と輪島沖区間が一度に活動した場合は M7.6 程度、輪島沖区間と珠洲沖区間が一度に活動した場合は M7.9 程度、猿山沖区間から珠洲沖区間まで全体が一度に活動した場合は、M7.8－8.1 程

度の地震が発生する可能性があります。

前6ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】輪島はるか沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

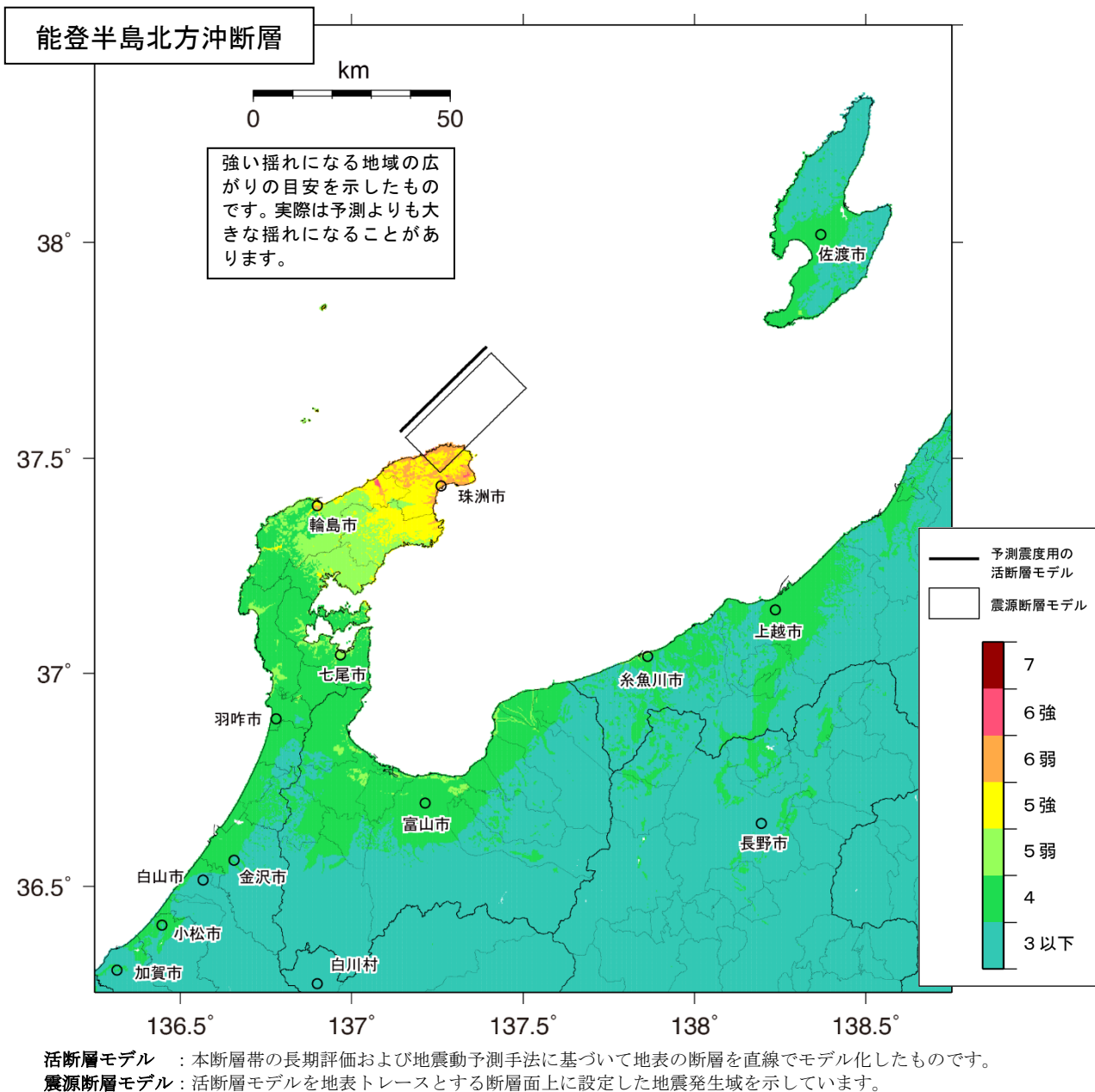
解 説

輪島はるか沖断層は、石川県輪島市の約 10 km 北方沖に位置する北東－南西走向の長さ約 24 km の南東側隆起の逆断層です。

輪島はるか沖断層全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】能登半島北方沖断層の地震による予測震度分布（簡便法）



解 説

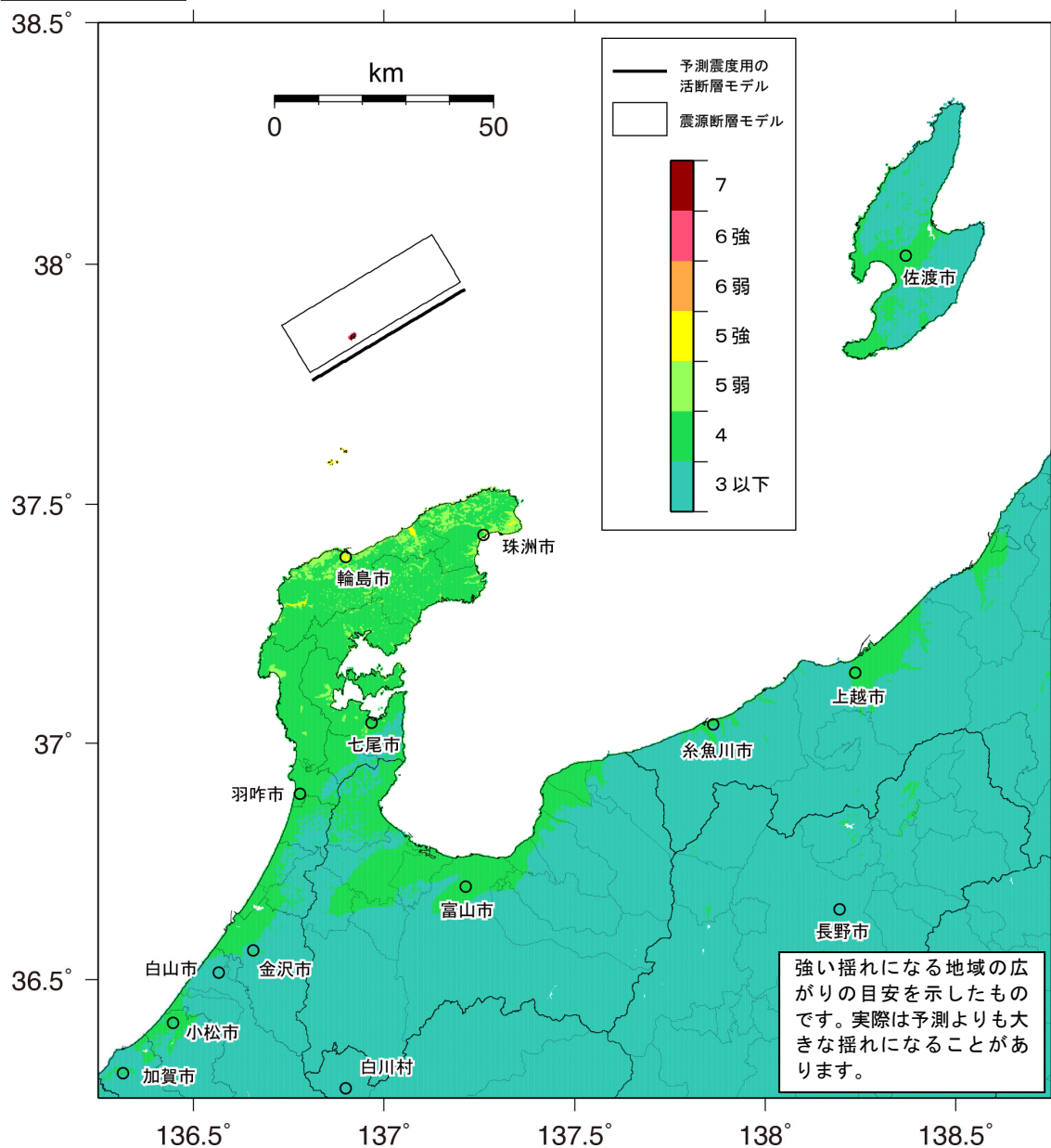
能登半島北方沖断層は、能登半島北岸断層帯珠洲沖区間の北方約 5－10 km に同区間とほぼ平行に北東－南西走向に約 31 km 連続する南東側隆起の逆断層です。

能登半島北方沖断層全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

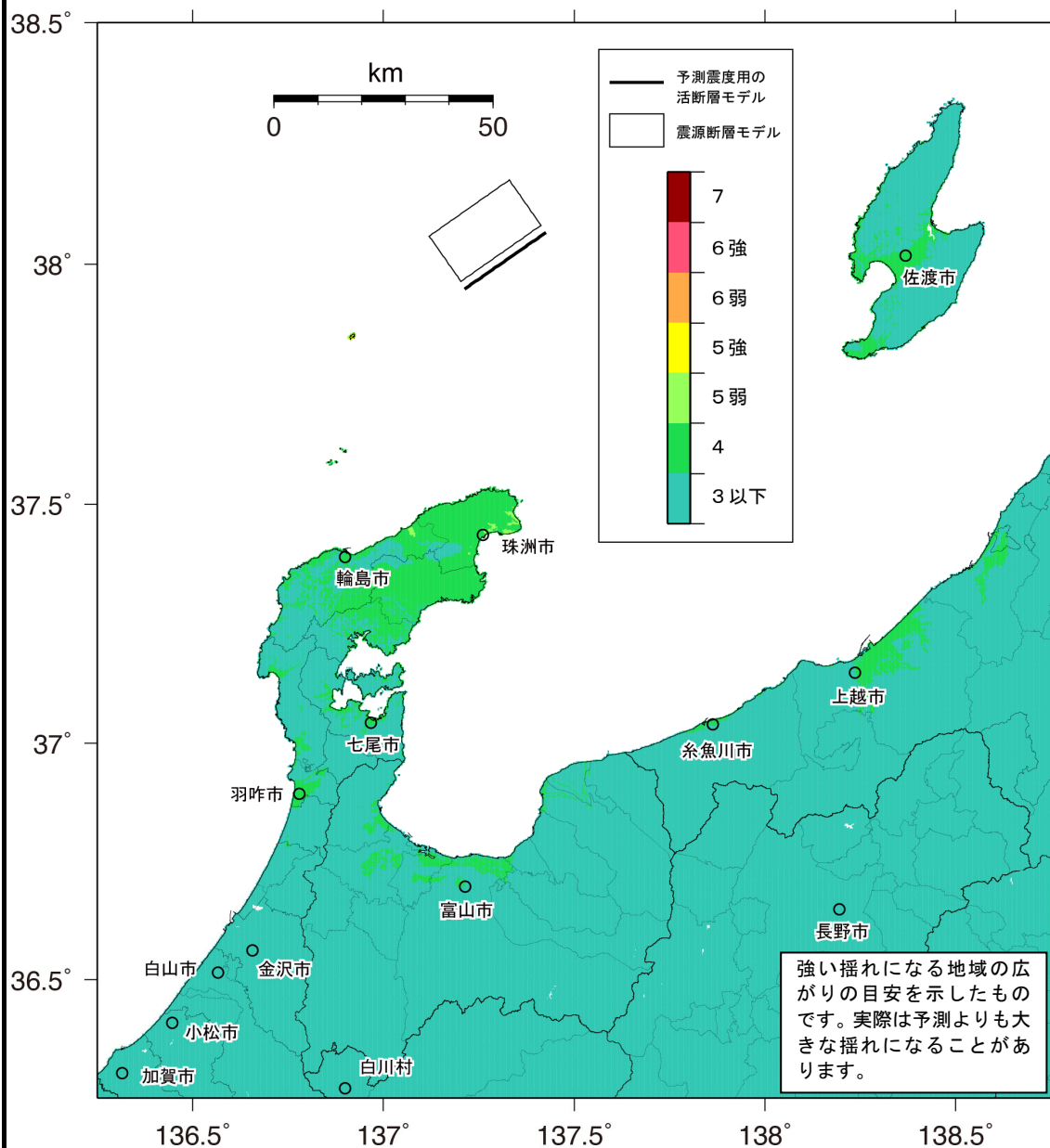
【参考】舢倉島近海断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

南西区間



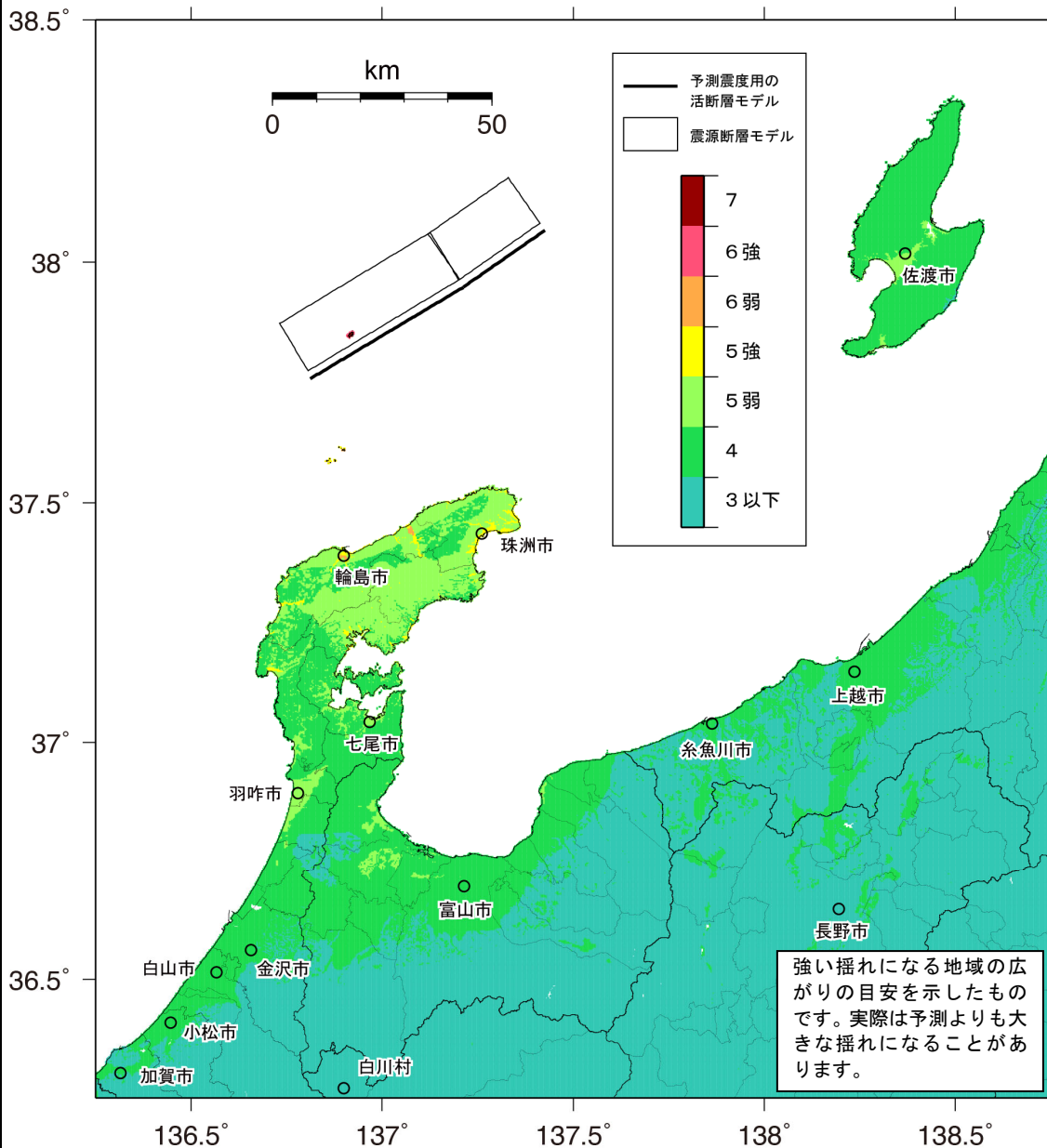
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

北東区間



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（南西区間・北東区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

舢倉島近海断層帯は、舢倉島南方沖から北東へ連続する北東－南西走向で長さ約 64 km の北西側隆起の逆断層です。断層北西側の地質構造の変化から、南西区間と北東区間に区分されます。

南西区間は、舢倉島南方沖に位置する北東－南西走向の長さ約 41 km の北西側隆起の逆断層です。南西区間全体が一度に活動した場合、M7.5 程度の地震が発生する可能性があります。

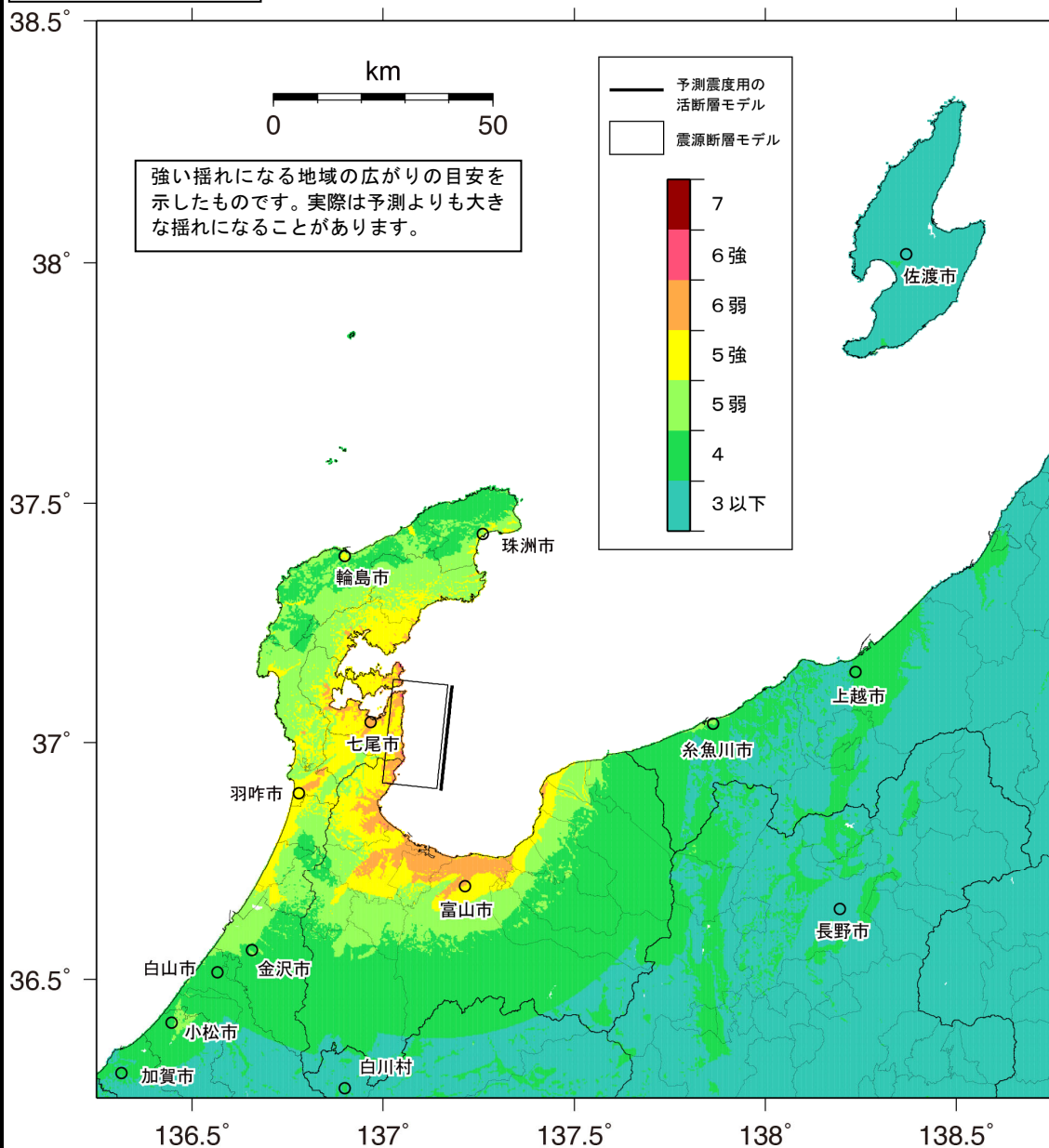
北東区間は、本断層帯南西区間の北東延長に位置する北東－南西走向の長さ約 23 km の北西側隆起の逆断層です。北東区間全体が一度に活動した場合、M7.1 程度の地震が発生する可能性があります。

南西区間と北東区間が一度に活動した場合には、M7.8 程度の地震が発生する可能性があります。前 3 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1 ～ 2 ランク程度大きくなる場合があります。

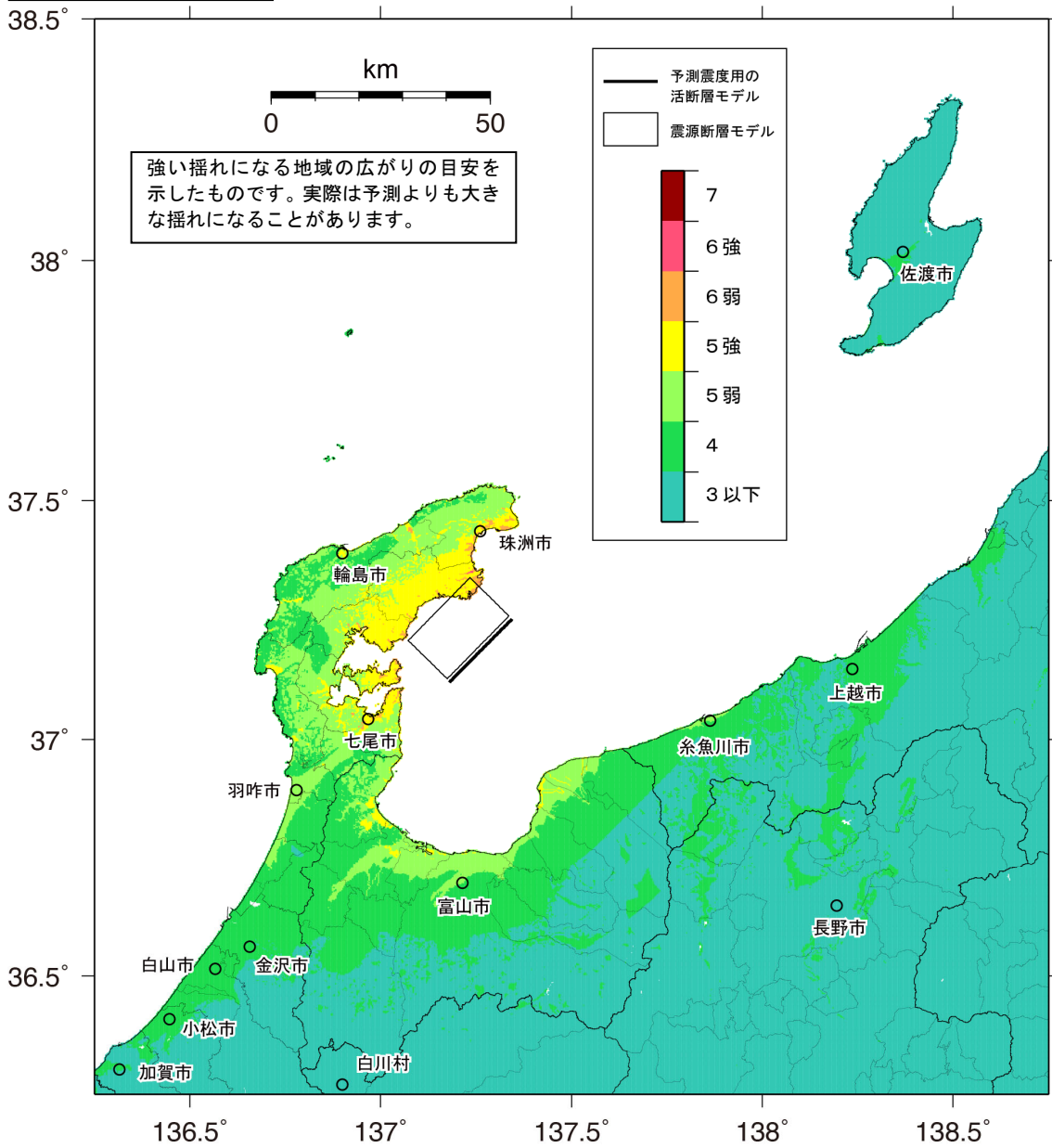
【参考】七尾湾東方断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

大泊鼻沖区間



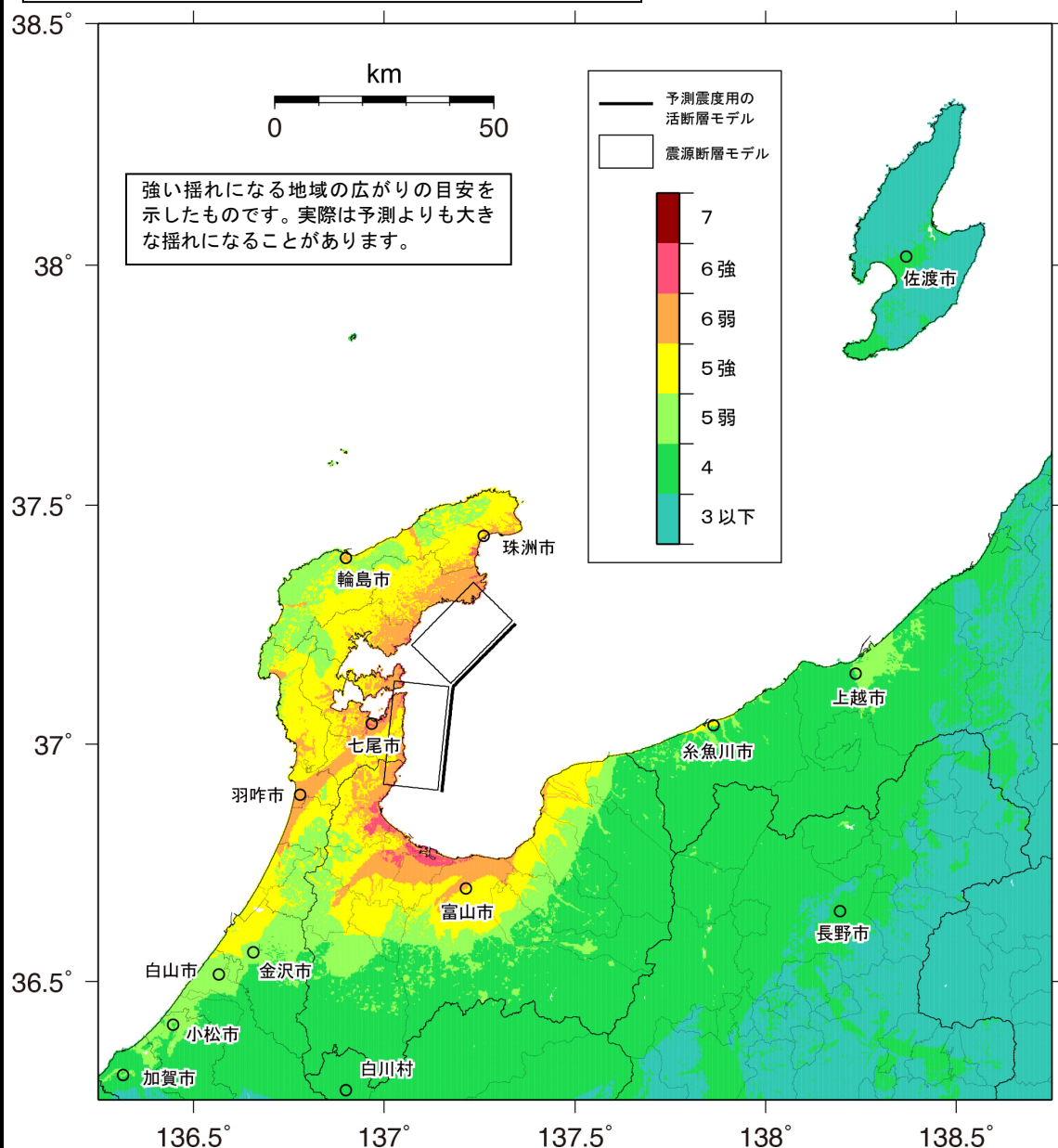
活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

城ヶ崎沖区間



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

同時活動（大泊鼻沖区間・城ヶ崎沖区間）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。

震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

七尾湾東方断層帯は、能登半島南東側の富山県氷見市北部から石川県鳳珠郡能登町東部の南東沖に形成された、南北走向と北東－南西走向の断層からなる長さ約 43 km の西側隆起の逆断層帯です。断層の走向が変化する七尾湾東方沖で南側の大泊鼻沖区間と北東側の城ヶ崎沖区間に区分されます。

大泊鼻沖区間は、富山県と石川県の県境付近に位置する大泊鼻の東方沖に形成されたほぼ南北走向の長さ約 25 km の西側隆起の逆断層です。大泊鼻沖区間全体が一度に活動した場合、M7.2 程度の地震が発生する可能性があります。

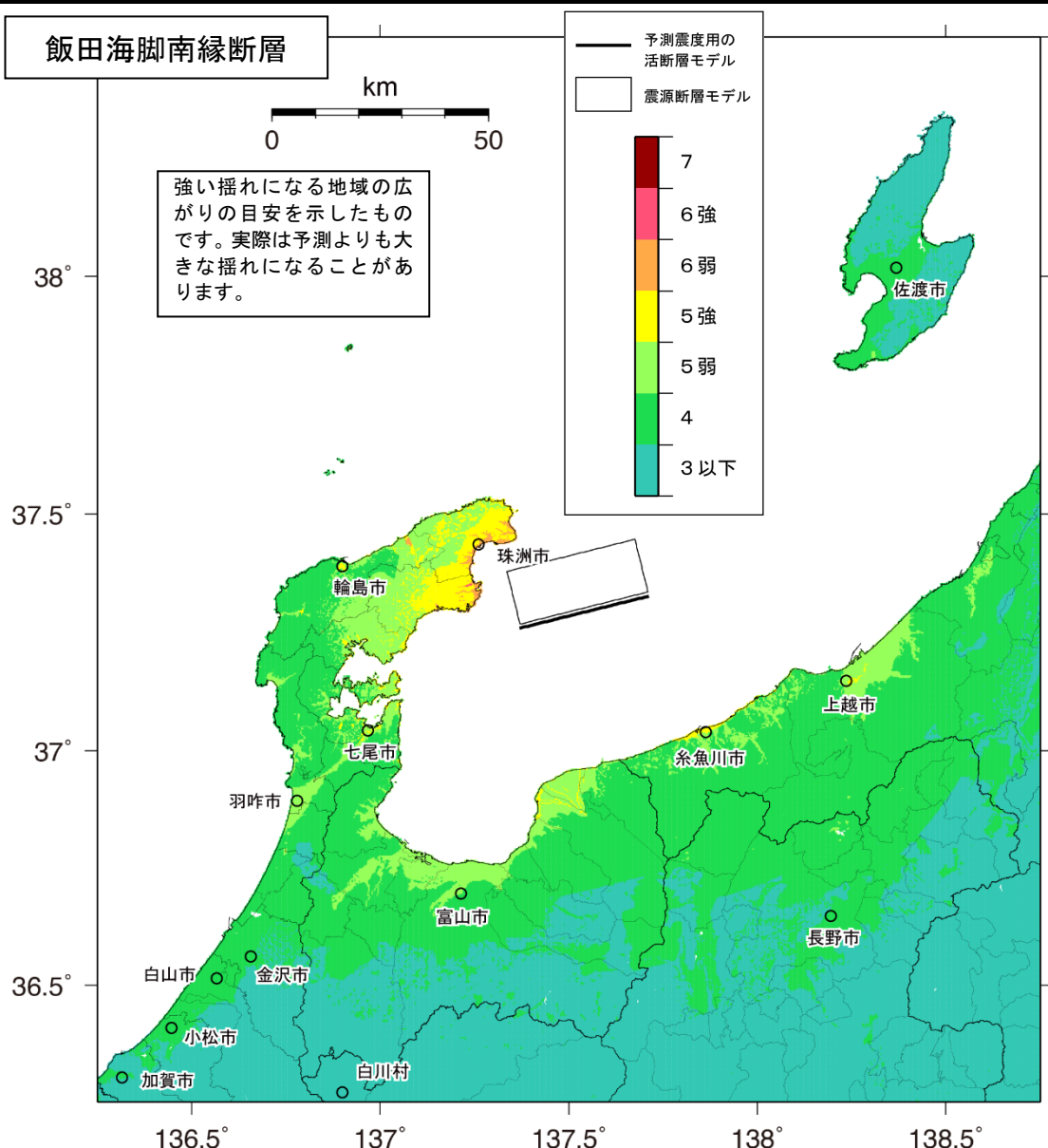
城ヶ崎沖区間は、七尾湾湾口沖の急斜面基部から、北東へ約 21 km 連続する北西側隆起の逆断層で

す。城ヶ崎沖区間全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。

大泊鼻沖区間と城ヶ崎沖区間が一度に活動した場合には、M7.6 程度の地震が発生する可能性があります。前 3 ページの図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1 ～ 2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】飯田海脚南縁断層の地震による予測震度分布（簡便法）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

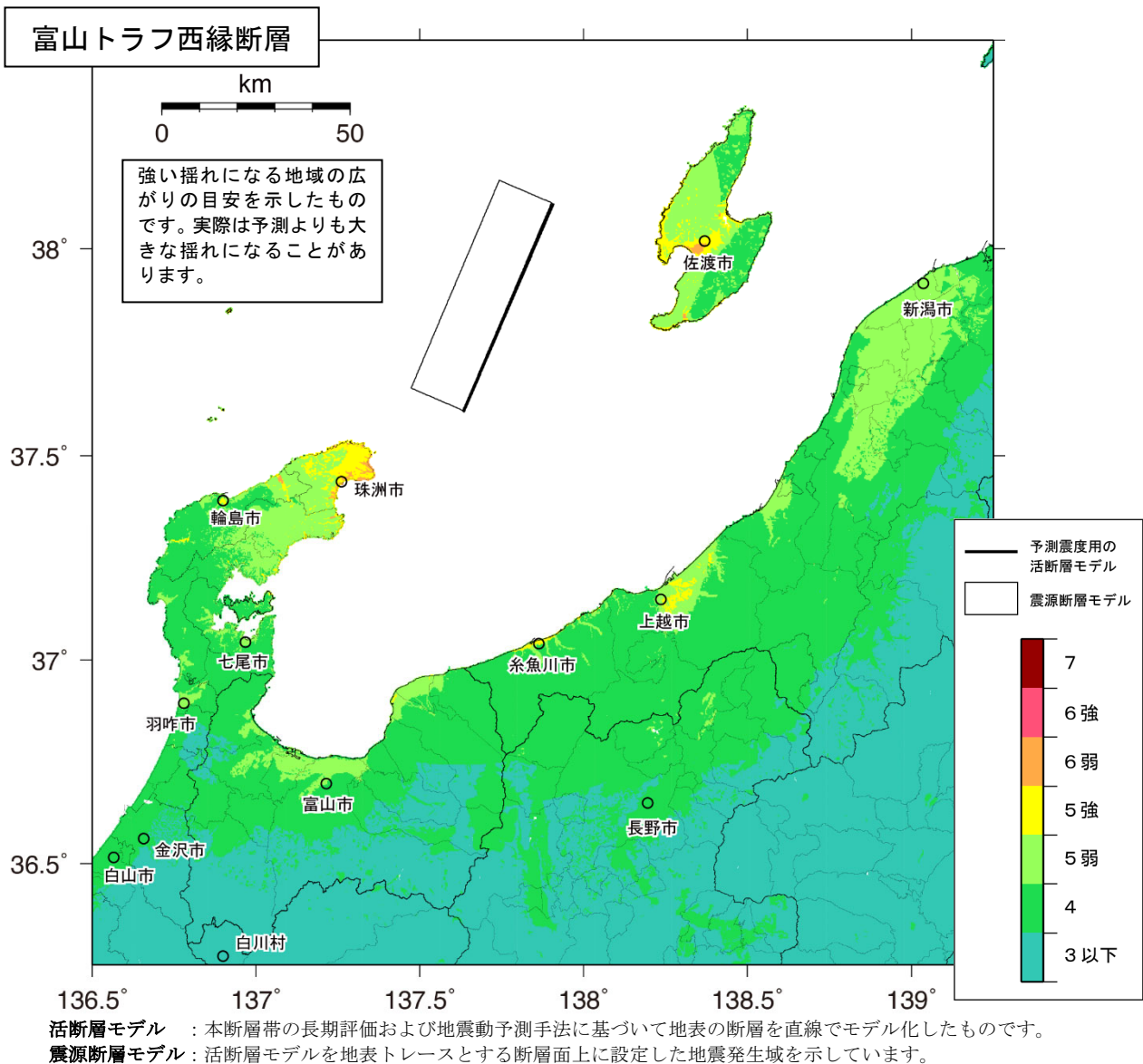
解 説

飯田海脚南縁断層は、能登半島東部から東方に張り出す飯田海脚の南側斜面基部に形成された、ほぼ東西走向の長さ約 31 km の北側隆起の逆断層です。

飯田海脚南縁断層全体が一度に活動した場合、M7.3 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】富山トラフ西縁断層の地震による予測震度分布（簡便法）



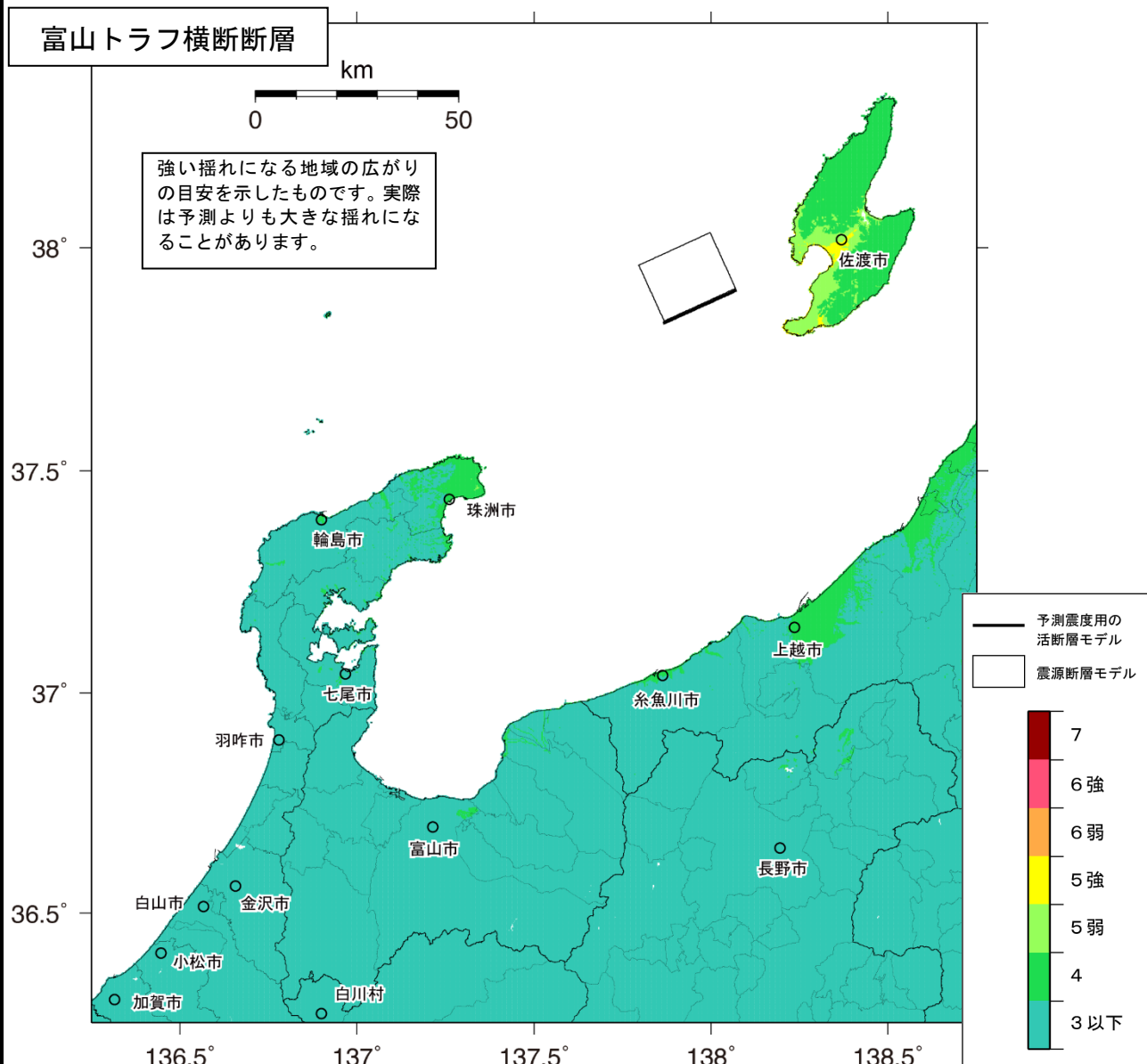
解 説

富山トラフ西縁断層は、能登半島北岸断層帯の北東側に形成された、北北東－南南西走向の長さ約 61 km の西側隆起の逆断層です。

富山トラフ西縁断層全体が一度に活動した場合、M7.8 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

【参考】富山トラフ横断断層の地震による予測震度分布（簡便法）



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線でモデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

解 説

富山トラフ横断断層は、富山トラフ西縁断層から枝分かれするように東北東に延び、富山トラフ東縁まで達する長さ約 20 km の北西側隆起の逆断層です。

富山トラフ横断断層全体が一度に活動した場合、M7.0 程度の地震が発生する可能性があります。上の図は、そのような地震が発生した場合に予測される、海域活断層（帯）の周辺地域の震度分布を示しています。

なお、実際の揺れは、予測されたものよりも 1～2 ランク程度大きくなる場合があります。

○計算の前提について

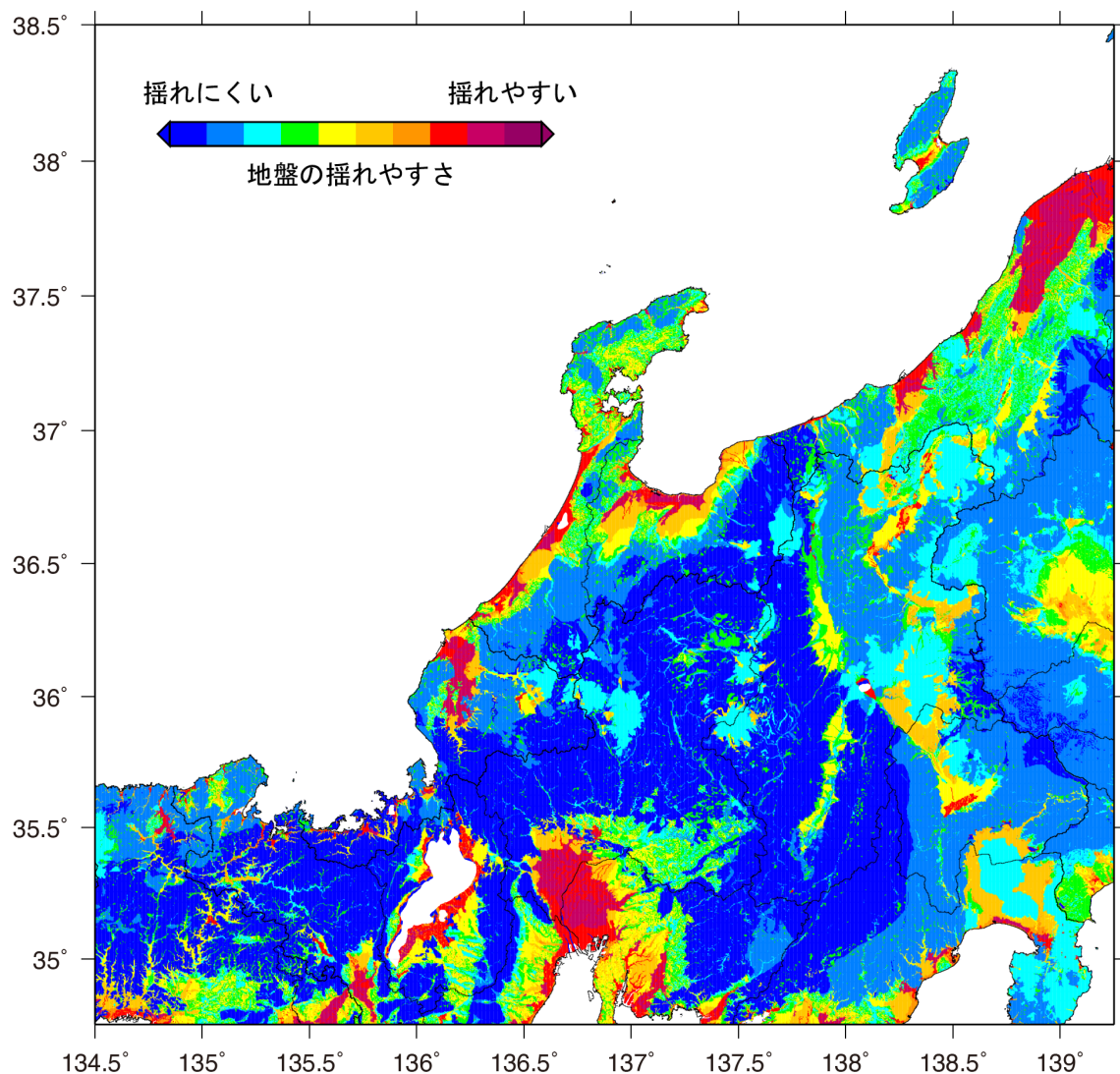
地震調査委員会では実施している強震動の計算には、地震の規模及び断層からの距離を用いて震度を計算する方法（簡便法）と、震源断層の破壊過程や深部の地下構造などをモデル化して地震動を詳細に計算する方法（詳細法）があります（次項参照）。

断層で発生する地震には様々なパターンがありますが、今回はそれらの平均的な揺れの程度を示すことを目的に、主に約 250 m 四方毎の震度を簡便法で計算しました。個々の地点での震度ではなく、強い揺れになる地域の広がり具合などに着目してご利用ください。

実際の揺れは、地震の発生の仕方や地盤の影響などにより、ここで予測されたものよりも 1～2 ランク程度、大きくなる場合がありますので、ご注意ください。

○地盤の影響について

揺れの大きさは、地震の規模や断層からの距離に加え、地盤の軟らかさやその厚さなどによって大きく変わります。下の図は浅い地盤での揺れの増幅率で、暖色ほど揺れやすくなることを示しています。



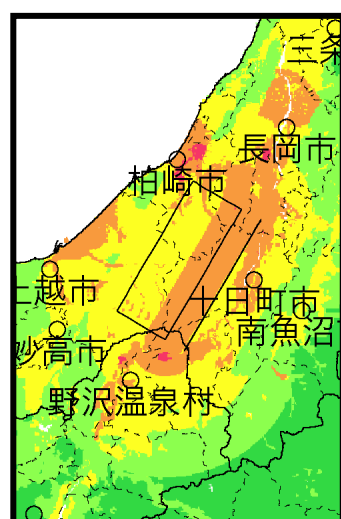
簡便法と詳細法による予測震度分布の計算結果の違いについて

～ 十日町断層帯西部の地震の例 ～

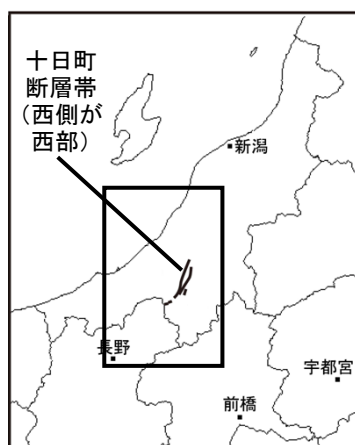
十日町断層帯西部の地震を想定した予測震度分布の例を以下に示します。

簡便法（左図）では、主に地震の規模と断層面からの距離および浅い地盤での揺れの増幅を考慮して計算を行っています。この方法による予測震度は、微細な様子を示すものではなく、震度分布の概要を表したものと言えます。

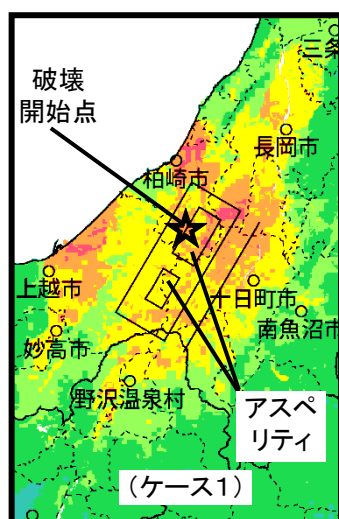
これに対し、詳細法（右4枚の図）では、破壊が始まる場所や、強い地震波を出す領域（アスペリティ）の位置を仮定して、複雑な地盤構造を考慮した計算を行っています。この方法によれば、簡便法に比べて、より詳細に実際の地震の起こり方を想定した震度分布を予測することができます。



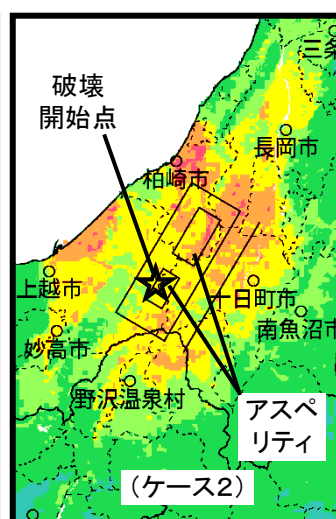
簡便法による予測震度分布
(今回適用した方法)



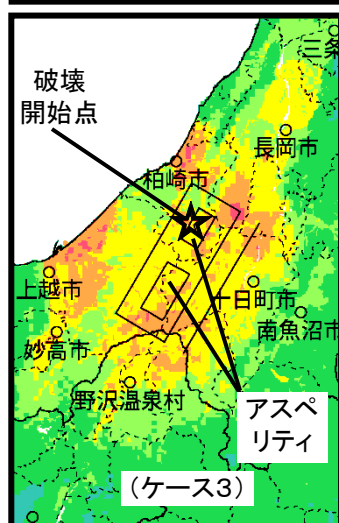
十日町断層帯西部での計算結果
の表示範囲 (地図の黒枠内)



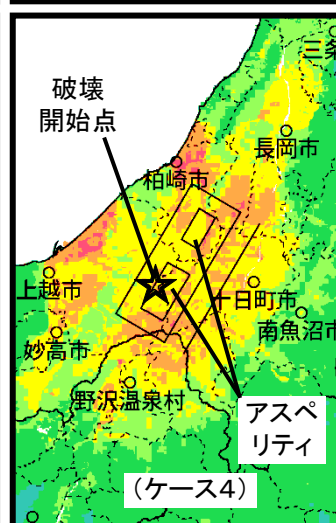
(ケース1)



(ケース2)

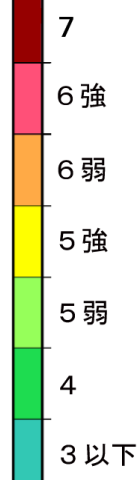


(ケース3)



(ケース4)

震度



詳細法による予測震度分布
(震源の設定が異なる4ケースを計算)